平成３０年度

大学院教育学研究科（修士課程）

第３次　学 生 募 集 要 項

及び

第３次　外国人学生特別選抜学生募集要項

GRADUATE SCHOOL OF AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION
The 3rd Round APPLICATION GUIDE FOR INTERNATIONAL STUDENTS
FOR THE 2018 ACADEMIC YEAR

（附・小学校教員免許取得コース案内）
（附・教育学研究科案内）

出願受付期間	平成３０年　２月１９日（月）～ 平成３０年　２月２３日（金）
試　験　日	平成３０年　３月１１日（日）
合格発表日	平成３０年　３月２３日（金）
入学手続日	平成３０年　３月２５日（日）～ 平成３０年　３月２６日（月）

愛 知 教 育 大 学

〒448-8542　刈谷市井ヶ谷町広沢１
入 試 課　　電　話　（0566）26 －2203・2202〔入学試験関連〕
ＦＡＸ　（0566）26 －2200
メール　nyushi@m.auecc.aichi-edu.ac.jp
教 務 課　　電　話　（0566）26 －2163 〔小学校教員免許関連〕
Webサイト　http://www.aichi-edu.ac.jp/

（名鉄名古屋本線 知立駅 北口からバス約２０分　愛知教育大前下車）
（名鉄豊田線 日進駅からバス約２５分　愛知教育大前下車）
（ＪＲ東海道本線 刈谷駅 北口からバス約３５分　愛知教育大前下車）

目　次

教育学研究科（修士課程）が求める学生像　・・・・・・・１

学　　生　　募　　集　　要　　項　・・・・・・・１１
１　専攻及び募集人員　・・・・・・・１１
２　出願資格　・・・・・・・１２
３　出願期間　・・・・・・・１２
４　出願手続　・・・・・・・１２
５　受験票の交付　・・・・・・・１６
６　選抜方法　・・・・・・・１６
７　合格者発表　・・・・・・・２５
８　入学手続　・・・・・・・２６
９　授業の実施方法　・・・・・・・２６
１０　過去の入試問題の閲覧について・・・・・２７
１１　個人情報の取扱いについて　・・・・・・２７

外国人学生特別選抜学生募集要項　・・・・・・・３１
１　募集人員　・・・・・・・３２
２　出願資格　・・・・・・・３４
３　出願期間　・・・・・・・３５
４　出願手続　・・・・・・・３５
５　受験票の交付　・・・・・・・４０
６　選抜方法　・・・・・・・４０
７　合格者発表　・・・・・・・４５
８　入学手続　・・・・・・・４５

小学校教員免許取得コース案内　・・・・・・・４９

教　育　学　研　究　科　案　内　・・・・・・・５３
１　研究科の概要及び平成30年度大学院担当教員（予定）・５４
２　履修方法　・・・・・・・７７
３　教育職員免許状　・・・・・・・７９
４　入学料の免除及び徴収猶予　・・・・・・・８０
５　授業料の免除　・・・・・・・８１
６　奨学制度　・・・・・・・８２
７　学生寮への入寮について　・・・・・・・８３

愛知教育大学　大学院　教育学研究科（修士課程）が求める学生像

愛知教育大学は，広域の拠点的役割をはたす教育大学として，人間理解と真理探究に努め，教育が直面する現代的課題への対応力を有し，子どもたちの未来を拓くことができる豊かな人間性と確かな実践力を身につけた専門職業人の養成を使命としています。

教育学研究科修士課程では，教科専門ならびに教育実践に関わる研究能力を有する教員・研究者の育成をめざします。本課程では，学士課程や教育現場で培った能力に加え，教員や専門職，研究者への強い志を持った，次のような人を求めています。

◎子どもの成長に関われることに喜びを感じ，教員や専門職，研究者として教育の場で先導的役割を担う意欲を持つ人

◎教育に関する基本的な知識・技能を有し，さらに深く学び研究する意欲を持つ人

発達教育科学専攻　<u>※３次募集を行いません。</u>

教育学領域

基本理念と目標

教育という営み自体は，学校が制度として確立する以前の昔から人間がずっと行ってきたことだと考えられます。現代では教育というと学校教育のことを想定する場合が一般的ですが，実際には学校以外の場面で行われる教育的活動もたくさんあり，それぞれが人間の発達に重要な役割をはたしています。教育学領域は，そうした多岐にわたる教育的活動を，さまざまな観点から広く追究し，教育の諸実践に活かすことのできる知見を提供することを目標としています。

本領域では，教育哲学・教育史・教育方法学・社会教育学・教育制度学・教育法学・教育社会学・キャリア発達研究などの諸学問分野を基礎としながら，誕生から死に至る間の，家庭・地域・学校・社会などのあらゆる場所における「人を育てる」営みについての，原理的・理論的・実証的・実践的な研究を進めます。そのうえで，これらについての深い洞察力を持った高度な職業人と研究者を養成します。

期待する学生像

教育学領域では，教育学諸分野の基礎知識を有し，それを一層深化させることで，以下のような将来の目標につなげることを希望する人物を求めています。

① 教育現場において，主体的に課題を設定して改善に取り組む意欲・能力を有する教員
② 教育行政・マスコミなど教育をとりまく分野において，得られた学識を活用して働く人
③ 研究者としてのディシプリンを修得して，大学院博士後期課程へ進学する人

教育心理学領域

基本理念と目標

教育心理学領域では，教授・学習心理学，発達心理学，教育社会心理学，臨床心理学等の心理学の視点から，教育という多面的で重層的な活動や実態を，データに基づき実証的にとらえることのできる人材の育成を目標としています。

具体的には，児童･生徒の姿やつまずきを量的・質的データに基づき適切に見立てるための教育心理学の知識を身につけ，そうした知見に基づく児童・生徒の学習活動や心理・社会面の発達のサポートに携わることのできる専門的な人材の育成を目指しています。

そのための講義や演習を開講すると共に，修士論文の作成において院生各自が抱いている教育や子どもの支援に関わる関心をもとに，実験，調査，観察，事例研究などを実際に計画，実行，分析することを通して，上記の実践を可能にする教育心理学的な見方やスキルを体験的に学んでいけるようなカリキュラム編成をしています。

期待する学生像

・心理学諸分野の基礎知識を有し，それらについて深く学ぶ意欲を強く持つ人
・教職やその他の社会人としての経験をもとに，教育心理学への関心をもち，教育心理学の専門知識・能力の向上や，実践的な課題についての理解を深めることをめざす人
・学校心理士の専門資格を取得し，教育心理学や発達心理学を活かした教育支援や発達支援に関わる専門職（例えば，教員，教育相談員，児童自立支援施設職員，法務教官など）を志す人

幼児教育領域

基本理念と目標

人間形成の基礎を培う乳幼児期の発達と教育を研究対象とする幼児教育領域は，幼児教育学，幼児心理学，保育内容学，児童福祉などの専門分野から構成されています。幼児を取り巻く社会や文化についての理解や，幼児教育の今日的課題への対処や改革，社会的な要請としての子育て支援や障がい児保育，幼・保・小の連携なども視野に入れています。

幅広い知識を習得するとともに，理論と実践との有機的連携を図り，幼児教育の創造開発に寄与できる高い専門性を有した保育者や研究者の育成，とりわけ保育者養成に携わる研究者を育成したいと考えています。また，現職の保育者を積極的に受け入れ，資質の向上を図り，幼児教育の現場に沿った実践的な課題解決能力と指導力が発揮できるように教育・研究を行います。

こうした課題に応えられるカリキュラム編成をもとに，附属幼稚園や地域の幼稚園・保育所・施設などの実践に密接に関わることを意識して研究課題を追究していきます。研究対象の特性上，フィールドでの調査や観察，臨床的なアプローチ，統計などの様々な研究方法についても学びます。

期待する学生像

1．幼児教育学，幼児心理学，保育内容学，児童福祉に関する基礎的知識を持ち，さらに専門的に研究することによって，子どもたちの能力や個性に応じた支援のできる知識と実践的な指導力を兼ね備えた保育者を志す人
2．幼児教育学，幼児心理学，保育内容学，児童福祉等の諸分野の専門性を深め，幼児教育の進展に寄与する研究者や，保育者養成校の教員を志す人
3．現職としての経験による実践的な課題を省察し，幼稚園，保育所，施設などの場で，豊かな学識とそれに基づく高い実践的力量を持ち，幼児に関わる様々な分野において中核的な立場での活躍を志す人

生活科教育領域

基本理念と目標

「生活科」や「総合的な学習」の実践では，子どもの興味・関心や身近な生活課題，教科横断的な課題などにもとづく体験的な学習，調査活動的な学習，問題解決的な学習などを重視します。子どもたちが自ら自分の願いや目当て，課題などを見つけ，自ら学び，考え，主体的に判断し，これらをよりよく成就・解決したり，問題の解決や探究活動に主体的，創造的に取り組み，自分の生きがいや生き方を考えたりする学習を求めているからです。そして，今日の学校教育と学校改革においては，このような「生活科」及び「総合的な学習」の理論と実践が必要不可欠だと思われます。なぜなら，これらは子どもたちの「生きる力」を培う創造的な教育活動であり，教師の自己変革や授業改革，学級・学校づくり，教育の本質追究等にもつながる重要な教科や時間だからです。

本領域は，これらの実践に必要な感性や情性，知性などが豊かで，高度な構想力や指導力，分析力などを発揮できる力量豊かな教師の養成を目指しています。

期待する学生像

従来の伝統的な教科とは異なる生活科および総合的な学習の創設の趣旨や理念，その特質についての基本的な知識と理解を有する人。これらの教科等が目指している子ども像に共感し，その理論と実践を積極的に学び，それらを改善することに意欲のある人。その子ども像とは，自分や身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち，自分自身と自分の生活について見つめ考える子ども，日常生活や社会の矛盾と問題の解決や探究活動に主体的，創造的，協同的に取り組む子どもです。そして，専門的知識・技能と研究能力をもち，さらに実践的力量のある教員を志す人。また，そのような教員の育成に携わる研究者を志す人を求めています。

日本語教育領域

基本理念と目標

本領域の教育目標は，国内外の学校をはじめとするさまざまな教育機関で日本語教育や異文化間教育に従事する人材の養成であり，つねに広い視野に立った上で専門性を深める能力の育成を心掛けています。本領域は，教育の現代的課題である日本語教育に関する諸問題について，社会，文化，言語，教育などの広い視野から研究を深めるとともに，学校をはじめとする様々な教育機関で日本語教育に従事する人材の育成を目指します。また，近年，日本国内で増加している外国人児童生徒の教育についても，重点的な教育研究を行っています。

期待する学生像

日本語教育領域では，次のような学生を求めています。

・日本語や日本文化をはじめとして，広く世界の諸言語・諸文化をめぐる問題に関心を持てる人
・外国人への日本語教育などを通じて，国際的な相互理解のあり方を考えることができる人
・高度な専門知識を獲得し，学界，教育界や社会で求められている責任を果たし，言語や文化に関わる教育・研究の推進にかかわっていく意志と，職業人としての強い倫理を持てる人

情報教育領域

基本理念と目標

現在では，公立学校のほとんどがインターネットに接続されており，そのうち半数以上の学校が高速インターネットに接続されている。家庭においてもパソコンやスマートフォンを使ったインターネットの利用が広まっている。急激な情報化の流れのなかで，現代の子どもたちは，自分自身の安全を確保しつつ情報化社会に対応してゆく能力を身につけることが必要とされている。情報教育に関して適切な指導ができ，さらに，学校の情報環境を利用してさまざまな教科で，わかりやすい授業を展開できる教員が求められている。

本領域の学生は，情報教育のあり方を含め，学校における情報教育に関する諸問題の研究とともに，広く情報技術を活用した教育支援のあり方，新しい指導法の開発の研究も行う。さらに，学校で必要とされる，サーバーの管理運営やメディア教材開発などの実践技術も修得する。

期待する学生像

本領域では，本学や他大学の学部からの進学者，現職教員や社会人など職業を持っている者，留学生など，多様な学生を受け入れている。

本領域が期待するのは，情報教育関係の知識・研究態度を身につけ，学校や教育関連分野で情報教育の指導者・研究者となり得る人材である。具体的には，次のような学生像を想定してカリキュラムを組んでいる。

・情報教育に興味のある者
・わかりやすい授業を実践するための教材開発，情報機器を利用した授業実践・授業カリキュラムの開発に興味のある者
・教育に有用なシステム開発に興味のある者

特別支援教育科学専攻

基本理念と目標

平和に寄与し，幅広い教養･人間性及び総合的な判断力を身につける本学の教育理念を基盤にし，教育に関わる理論的･実践的研究を進め，実践力と専門的能力を備え教育の様々な分野で活躍できる人材の育成を目指す本学専攻科の理念を共有する本専攻は，特に障害者の教育と生涯にわたる支援に関わる取り組みについて，次のような基本理念と目標を持って有為な人材の育成に携わります。

本専攻では，障害者のニーズに適切に対応でき，広範な実践的指導力を有する専門職，さらには障害者の教育や福祉に関する高度，かつ総合的･多面的･柔軟な研究を進展していく人材を養成することを目的としています。そのため，基礎から応用･実践学までの幅広い講義，教育･心理･福祉･医療の連携を重視した講義を開講するとともに，地域の教育･福祉機関と連携することで，高度な実践的指導力の育成を図っています。

期待する学生像

特別支援教育科学専攻は，主として知的障害者，肢体不自由者，病弱者，聴覚障害者，視覚障害者についての教育，生涯にわたる支援という視点に立つ福祉という２つの大きな柱によって構成されています。ゆえに，これらに関する基本的知識を有し，障害者の個々のニーズに応じた教育・福祉の研究並びに実践に強い意欲を示し，将来これらについての研究･実践における指導的立場を目指す人を望みます。

また，現在の特別支援教育では，特別支援学校が障害者への教育に関わる地域のセンターとして機能することが求められており，さらに幼稚園，小･中学校，高等学校，大学・専門学校等の教育機関においても学習障害（LD），注意欠陥多動性障害（AD/HD），自閉症スペクトラム障害（ASD）等の発達障害者への積極的な支援が求められています。本専攻においては，社会や時代の要請に合わせ，個々のニーズに対応した教育の実現に強い意欲を示す人を望みます。

養護教育専攻　<u>※３次募集を行いません。</u>

基本理念と目標

本専攻は，全国に先駆けて1993年に「養護教諭のあり方の基盤となっている養護教諭論，養護活動特論，養護活動研究を主体とした『養護教育学』は教科の専門領域とは異なることから，養護教諭の専門について学び研究できる固有の専門領域が必要である」との理念のもとに開設されました。

加えて，養護教諭には，学校におけるすべての教育活動を通して，ヘルスプロモーションの中核となって児童・生徒等の心身の健康の保持増進や，発育・発達の支援を行うことが求められています。そのために，本専攻では健康に関連した諸科学の研究成果を活用して，多様な課題に対応できる高度な専門的知識と能力を有する養護教諭及び研究者を育成し，もって養護教育学および関連諸科学の発展に寄与することを目的とします。

期待する学生像

１）養護教育学や関連諸科学の基礎となる知識を有し，それらについてさらに深く学び研究する意欲を持っている人

２）関連諸科学の基本的学識を有し，教育現場における理論と実践を融合させる養護教育学研究に興味・関心を持っている人

３）教職の経験を生かした実践的研究を分析し，他校の教育実践に活用できるような理論を導き出すことに興味・関心を持っている人

４）教職をはじめ社会人としての経験をもとに，養護教育に関する専門的能力の向上を目指し，実践的能力や学術的能力の研鑽に意欲を持っている人

学校教育臨床専攻　※３次募集を行いません。

基本理念と目標

本専攻では，「ハートのある現場志向の臨床家育成」を基本理念に掲げ，教育臨床学・心理臨床学の知識や理論の習得のみならず，それらの知見に基づき，教育分野をはじめ，広く子どもたちへの援助が求められる福祉や司法，医療など様々な臨床分野において活躍できる，高度な専門性を身につけた心理臨床家の養成を目指しています。

この理念のもと，大学院在学の間に，臨床実践に必要な心理臨床的な態度や姿勢，基本的な知識，心理面接ならびに心理検査を行う技能を身につけることを目指し，大学院修了後には様々な臨床現場において高い臨床実践能力を発揮できる人材の育成を目標にしています。

期待する学生像

本専攻では，専門的な心理臨床の知見と臨床実践力によって，心理臨床現場を訪れる方々の心理的問題ならびにそれらを取り巻く家庭・地域・社会の諸問題に対応することのできる，専門家を志す人を求めています。

具体的には，臨床心理学の知見だけでなく，相談者や他領域の専門職の方とのやりとりからも学んでいこうとする謙虚でありながらも積極的な姿勢，自らの能力に自己満足することなく絶えず心理臨床家としての専門性を高める努力を惜しまない向上心を持って，現場において心理臨床実践に取り組んでいこうと考えている熱意のある学生を求めます。特に，本専攻ではカリキュラムのなかに学内外の実習を多く取り入れておりますので，主体性や目的意識を持って実習に臨むことのできる意欲のある学生を求めています。

国語教育専攻

基本理念と目標

国語教育専攻は，ことばとことばを生みだした人間・社会・自然に対する広い認識に立って，国語および国語にかかわる言語文化（国語学，国文学，漢文学，書写・書道）の諸領域について，各自が設定した中心的課題を深く考究する場です。同時に，学校教育における国語教育においては，児童・生徒一人ひとりに異なった現実（児童・生徒とそれを取りまく地域，学校，家庭）が存在し，その個別具体性に即した課題に応えていくことが要求されます。当専攻には，国語科内容学領域と国語科教育学領域とがあり，いずれかに所属し，学び研究していくことになりますが，両者はあい支えあう関係にあり，教育の現場で要求される実践力の向上をはかるとともに，その基盤となる学問分野の研究能力をも高めていく必要があります。また，その研究能力は，教育の場における実際的な課題に直面して，真価が問われることにもなります。当専攻は，そうした活力ある研究能力を高める場であることを目指しています。

期待する学生像

上記の理念と目標に掲げたように，目の前の現実的課題を直視するとともに，それを歴史的，社会的に広い視野に立って，積極的かつ創造的な態度で研鑽を積む意欲のある人，および，将来国語教育の現場に立ち，優れた実践力・研究能力で多様な問題に対応する熱意をもった，次のような人々を求めています。

（１）優れた国語教育の能力と実践性を持った教育者を志す人
（２）具体的な課題を持った意欲的な現職教員の方々
（３）創造性豊かな研究・開発能力を培い，国語教育の進展に寄与する研究者を志す人
（４）国語科内容学領域（国語学・国文学・書道・漢文学）を深く研究する意欲をもつ人
（５）国語科教育学・内容学に対する深い造詣を兼ね備え，社会のさまざまな分野での活躍を志す人

英語教育専攻

基本理念と目標

英語教育専攻の領域は大きく「英語科教育学」と「英語科内容学」に分かれ，英語科内容学はさらに英米文学と英語学に分かれます。

英語科教育学では理論と応用能力とを兼ね備えた英語教師の養成を目指します。また現職の教員との連携や，内外の研究成果を活用できるような環境を有しています。英語科内容学（英米文学）では，英文学・米文学・アイルランド文学を中心に，その背景となる歴史や文化も研究します。時間的・空間的に異なる背景を持った英語を研究することは，英語力を格段に向上させると同時に，文化の多様性に対する理解力を養うことにもつながります。英語科内容学（英語学）では英語という言語の特性を，歴史的，共時的に解明します。自分たちが教える英語ということばの成り立ちや仕組みについて深く学ぶことは，確かな英語指導力を修得することに直結します。

以上の三分野が有機的に連携・協力することにより，修士レベルにふさわしい高度な職業人の養成を目指します。

期待する学生像

本専攻では，英語教育の分野で指導的な役割が果たせるような人材の育成を目指し，次のような学生を求めています。

①卓越した英語力，英語分析能力，言語分析能力を有し，それを教育現場に応用できる人。
②外国語教育に関する高度な専門知識を構築し，教育や研究の分野に貢献できる人。
③世界の歴史や文化，また社会に目を向け，高いグローバルリテラシーを有する人。
④国際交流に積極的に関わり，外国との相互理解を進める上での社会的な役割を果たせる人。

英語教育の具体的な諸問題に対して敏感であることはもちろん，高度な英語力と専門的知識，また応用能力を背景として，広い視野を持って問題解決にあたり，分野を先導していく意欲と能力を有する人材を求めます。

社会科教育専攻

基本理念と目標

社会科教育専攻は，教育現場での社会科における指導的役割を担い，また広く社会科に関わる教育・研究活動を通して日本社会さらには国際社会に寄与できるような教員や研究者を育成することを目標としている。そのためには，現代社会の諸問題を多面的・多角的にとらえ，体系的に理解し，自らの見識をもって行動できるような，深い学識と優れた実践力を育てていくことが必要となる。その課題を果たすために，社会科教育専攻では，社会科教育学領域と社会科内容学領域とに分かれて，それぞれの特色を生かして教育を進める。社会科教育学領域では教育現場との関わりを重視しつつ，教材や授業法の研究・開発など実践的な活動によって力量を高めていく。社会科内容学領域では，哲学・倫理学，歴史学・民俗学，地理学・地誌学，社会科学，国際文化の５つの分野に分かれて教科の背景となる専門研究への理解を深めるとともに，広い教養に裏打ちされた知性を養っていくものである。

期待する学生像

社会科教育専攻では，上記の目標に向かって，教員とともに学び，研鑽を積んでいくための意欲と能力を有する学生を求めている。そのため

①平和で民主的な社会の形成に向けて寄与する意欲のある者。
②国際社会の中で生きる日本の将来に向けて貢献しようとする意欲のある者。
③社会科教育に関する高い専門性を修得するための意欲と能力のある者。
④学校教育の現場で，地域や保護者と協働して活動する意欲と能力のある者。
⑤郷土や地域への深い理解に立って次世代への教育にあたろうとする意欲と能力のある者。

などに該当する学生が望ましいことは勿論であるが，何よりも自らを高め，教育現場における社会科教育の中核的な役割を担う存在になろうとする熱意を持った学生を，われわれは求めて已まない。

数学教育専攻

基本理念と目標

数学的なものの考え方や知識が自然科学の根底を支え，人類の文明・文化の発展と繁栄を支えてきました。とりわけ，近代以降の科学技術の進歩は数学なくしては考えられません。今後も人類の歴史が存続するかぎり，新たな技術の理論的根底を支え，開発の推進力として数学の役割はますます大きくなって行くことでしょう。特に，情報化と国際化がますます進む現代にあっては，数学を学ぶことを通して得られる論理的な考え方や，普遍的で自由なものの見方が強く求められています。

本研究科数学教育専攻は，数学教育に関する理論的・実践的に高度な専門性を持つとともに，職場や地域の核となれるようなリーダーシップを持った教員の育成や，数学をはじめとする自然科学の基礎，およびコンピュータ等に関する情報科学の基礎を身につけ，社会・文化の発展に寄与する人材を育成することを目標としています。

期待する学生像

・高度で専門的な職業人にふさわしい知識を持ち，教育活動を計画し実践できる教員を志し，教育の現場での活躍を志す人
・社会の多様な要請に対応できる専門性と，教育に関する深い造詣を備え，さまざまな分野での活躍を志す人
・児童・生徒はどのように算数・数学を理解していくのかに興味があり，その知見を生かした教え方を追究したい人
・小学校，中学校，高等学校における算数・数学の内容と高度な数学との関係に興味を持ち，これからの教育ではどういう数学の内容・方法を教えていくべきかを追究したい人
・新しい数学が，いかにして生まれ，そしてさまざまな領域でどう活用されているかを探究したい人

理科教育専攻

基本理念と目標

本専攻は理科教育学領域ならびに理科内容学領域の教育研究活動を基盤に，高度な能力を持つ教員の養成と，理科の教育や内容に関する諸問題について深い知識や研究能力を持つ人材の育成を目的とする。

〈理科教育学領域〉

小・中・高等学校や社会教育施設での理科教育における教育目的・教科課程・指導方法・教材構成・認知心理・学習評価・教師教育等に関わる諸問題の解決に向け，理論的・実証的な研究を推進できる専門的能力の育成とともに，その成果に即した高度な教育実践を展開できる力量の獲得を目標とする。

〈理科内容学領域〉

小・中・高等学校における理科（物理学・化学・生物学・地学）の内容理解の深化および考察力の強化，現代的理科内容の研究力の確保を教育研究活動の重点的目標とする。

期待する学生像

本専攻の理科教育学領域ならびに理科内容学領域ではそれぞれ，次に示すような基礎的力量を持ち，高度専門的職業人を志して学修や研究の推進に意欲のある学生の入学を期待する。

〈理科教育学領域〉

初等・中等教育に関する基礎的な知識・技能や教育実践力を獲得した人で，理科教育に関する高度な専門知識・技能と教育実践研究力を持った学校教員やその育成に寄与する研究者を主に志す人

〈理科内容学領域〉

自然科学に対する大きな興味と豊富な探究心を持ち，自然科学に関する基礎的な知識と考察力を有した人で，理科の内容研究の進展に寄与する学校教員や研究者，その専門知識に関連した職業人などへの志を持つ人

芸術教育専攻（音楽分野）

※音楽科教育学領域及び音楽科内容学領域（声楽）は３次募集を行いません。

基本理念と目標

本分野は「音楽科教育学領域」と「音楽科内容学領域」の２領域からなります。どちらにおいても，社会の様々な場において音楽が抱えている多様な課題へ柔軟に対応できる能力を有した音楽教育の専門家，並びに音楽を通して社会に貢献する指導者の養成を目指しています。

その基本理念は「包括的音楽性」を育てることにあります。包括的音楽性とは，ヨーロッパ音楽に偏ることなく多様なジャンルの音楽へ対応できる音楽性を追究するとともに，演奏や創作の技法，そして音楽を指導する方法論，さらにそれらを客観的に分析し考察するための手法を学ぶことで，音楽に対する感性を研ぎすまし追究していく中で得られる総合的な能力を指しています。

よって本分野では，自身の専門性をより深めていくためにも，特定の専門分野に限定することなく幅広い視野をもち，多元的かつ多角的に課題へ取り組むことで包括的音楽性をより高めることを求めています。

期待する学生像

音楽分野では以下のような資質と能力を具えている人物，またはそれらを身に付けようとする意志を有する人物を求めています。

- 将来，学校教員や社会における音楽指導者および研究者をめざすために必要な基本的音楽知識と技能を有している者
- 人間としてあるべき倫理観と人権意識を常に高くもち，自らの教育経験と音楽経験を客観的に振り返りながら専門性と幅広い見識を追求しようとする者
- 音楽科教育を中心とする理論と実践に関わる基礎的な研究能力を身につけるために，教育と研究活動を自ら推進していこうとする意欲のある者
- 音楽と教科教育を架橋する専門的知識と教養の獲得を目指し，教育と研究に携わっていく者として絶えず向学心と探究心をもち続けながら，自らの専門的能力の研鑽に意欲的に取り組んで行こうとする強い意思のある者

芸術教育専攻（美術分野）

基本理念と目標

本分野は，美術・工芸の専門的な技能や指導力を持った学校教育者や，社会教育など様々な教育機関での教育者・指導者を育成することをめざしている。

また，美術・工芸における創造性およびそれらの教育的な意味と価値を，幅広い作品制作と思索の積み重ねを通じて総合的に探究することを目的としている。

本分野は，美術科教育学領域と美術科内容学領域のふたつの大きな柱によって構成されている。このいずれかの領域を中心としながら，幅広い分野にわたる研究教育と実践体験を重ねることにより，様々な形で現代の社会に貢献できる人材を育成することが本分野の目標である。

期待する学生像

この分野で何をどのように学ぶかというしっかりした目的意識と，将来への展望を持つ学生の入学を期待する。

美術とは，決して孤独な作業ではない。狭い意味では共同の作業も多いし，広い意味では教育機関・企業・自治体など様々な場所で，人々と手を取り合いながら，より豊かな社会をめざす営みでもある。そういう社会的な意識を持ち，美術を通した社会貢献を目指す学生を歓迎する。

学校教員の現職者はもちろん，大学を卒業し社会で経験を積んだ受験生も歓迎する。

保健体育専攻　※３次募集を行いません。

基本理念と目標

保健体育専攻は，学校体育，運動・スポーツ・健康に関する複雑で多様な課題を積極的に解決できる高度な専門能力を備えた保健体育分野の専門家の育成をめざします。本専攻は「保健体育科教育学」と「保健体育科内容学」の二領域からなり，前者では，保健体育科の授業づくり・教材開発など，教育実践に直接寄与するテーマを取り扱い，幅広い教養と実践的思考に支えられた専門的学識と技量を体系的に修得します。後者は，保健体育科の教育内容の科学的な根拠を担う領域であり，体育・スポーツに関する課題に対して，体育学・運動学・学校保健学の三分野からのアプローチによる高度な専門的知識と研究手法，分析能力を身につけ，諸問題に対応できる能力を養います。

大学院修了後は，学校教育において教科研究のリーダーとなりうる教員や，さらに保健体育分野における科学的な研鑽を積み重ねていける人材の育成を考えています。

期待する学生像

保健体育分野にかかわる専門家を育成するために，次のような学生を求めています。

・教員および研究者をめざすための基礎的学識を有する者で，学校体育，運動・スポーツ・健康に関する問題に関心をもち，それらについてさらに学修することに意欲のある者
・保健体育科の教育を中心に，教材開発力や実践能力を高め，学校現場における問題の解決に積極的に貢献しようとする者
・教員をはじめ社会人としての経験をもとに，現場に求められる専門能力の一層の向上をめざし，その研鑽に努め，指導的立場を志す者
・保健体育科教育学・内容学のより高度な専門的知識や研究手法を学び，将来，保健体育分野のより高度な専門家としての道を歩むことに熱意のある者

家政教育専攻

基本理念と目標

人とモノがグローバルに行き交う現代にあっては，急激に変化する「生活」とそれを取り巻く人間関係や社会のあり方，人の生活と自然環境の関係を多面的に探究し，生活課題に主体的に共同で取り組み，「生活」を真に豊かなものに変えていくことが求められています。家政教育専攻は，この課題に向き合う教育・研究の在り方を追究することを目的として，「家庭科教育学領域」と「家庭科内容学領域」の二領域を設けています。「家庭科教育学領域」では，上記の課題に向き合う教育実践の創造のために教育理論，教育史，教育実践などの研究を中心に行います。一方，「家庭科内容学領域」では，家庭科で追究される生活課題（例えば，消費社会や少子高齢社会における生活のあり方，環境と共生など）について，食物学，被服学，住居学，家族関係学，生活経営学，生活経済学，保育学，消費生活科学などの研究視点から探究します。

期待する学生像

家政教育専攻では，「生活」を探究することと，そのことを人が生涯追究し続ける「学びの営み」について深い洞察をもった，家庭科教員など学校教育・社会教育現場において活躍できる専門職，公務員など行政において人々の生活に関わる専門職，あるいはそれらの育成に寄与することのできる研究職などにつける人材の養成をめざしています。その目的のため，家政教育専攻では，以下のような高い志を持った学生を求めています。

・家庭科の教員を志し，現代生活の諸課題を探究し，教育方法を開発することを志す人
・高度の専門的知識と実践力を持った学校教育および社会教育の専門家を志す人
・家庭科に関する高度な専門的知識と研究手法を身につけた専門的職業人を志す人
・市民生活に関する高度な専門的知識を生かし，行政や地域に密着した公的な職業人を志す人

技術教育専攻

基本理念と目標

現代社会を主体的に, 健全に生きるためには国民の一人ひとりが, ものづくりに関する実践的な理解と技術的素養を身につけることが必要不可欠です。本専攻はこのような観点に立ち, 製品の設計・加工技術, エネルギーの制御・利用技術, 作物栽培等の生物育成技術, 及びコンピュータ・情報通信技術など, 生活及びものづくり=生産活動の基盤となる技術を, 教育・研究の対象とするとともに, 成長期にある子どもの全人格的な発達を促す上で有効な技術教育のあり方や展開法等を重要な教育・研究課題としています。

期待する学生像

上記した観点からのより高度な理論的・教育的基盤を修得し, 豊かな研究能力と教育実践力を身につけたい人,そうした能力を有した有為な教員や研究者,技術者を志す人を求めます。
とりわけ,学んだ科学的知識・技術を,実験・実習などにより実践的に検証したり,創造的な活動をする実行力が要求されます。また,本専攻では,電気，機械，木材加工，金属加工，栽培・飼育，情報等多くの分野に関する知識と技能が必要であり,それらを技術教育に生かすため,有機的に連携させる柔軟な発想と創意・工夫する能力も求められます。従って,特に本専攻では,積極的に学習する意欲のあることに加え,次に該当する者を望みます。

1. 科学技術に強い興味と関心を持っていること
2. 獲得した知識や技能を積極的活用する行動力・実践力があること
3. さまざまな課題解決のために,創意・工夫する豊かな感性と創造力を持っていること
4. 技術教育につながる教育に関する基礎的知識とりわけ子どもの発達への理解を持っていること

Ⅰ 学生募集要項

１　専攻及び募集人員
教育学研究科（修士課程）　平成３０年度（定員１００人）

専　　攻	分　野	領　　域	募集人員※
特別支援教育科学		特別支援教育科学	若干名
国　語　教　育		国語科教育学　　国語科内容学	若干名
英　語　教　育		英語科教育学　　英語科内容学	３人
社　会　科　教　育		社会科教育学　　社会科内容学	５人
数　学　教　育		数学科教育学　　数学科内容学	３人
理　科　教　育		理科教育学　　理科内容学	若干名
芸　術　教　育	音　楽	音楽科内容学（ピアノ，作曲）	３人
	美　術	美術科教育学　　美術科内容学	
家　政　教　育		家庭科教育学　　家庭科内容学	３人
技　術　教　育		技術科教育学　　技術科内容学	若干名

※発達教育学専攻，養護教育専攻，学校教育臨床専攻，音楽科教育学領域，音楽科内容学領域（声楽），保健体育専攻は，第３次募集を行いません。

⑴ 教育学研究科（修士課程）の全ての専攻には，「昼間開講コース」とともに，主として現職教員，教育関係者及び社会人等を対象とする夜間等に授業を行う「昼夜開講コース」があり，募集人員のうち，各専攻・分野とも数名を「昼夜開講コース」において募集します。
⑵ 教育学研究科（修士課程）の志願者は，志望するいずれか一つの領域に限り出願することができます。また，「昼間開講コース」と「昼夜開講コース」をあわせて出願することはできません。
なお，１６ページ⑶ その他の②のとおり出願書類提出後は記入事項の変更は認められませんので，志望する専攻・分野・領域については，「教育学研究科案内」を参照の上，慎重に検討のうえ出願してください。
⑶ 本学では，広く一般に大学院教育の機会を提供するため，平成１７年度より社会人のために入学試験の特例措置を実施しています。詳細は，１６ページの「６　選抜方法」をご参照ください。

◎ 本学大学院には教育学研究科（修士課程）の他，教育実践研究科（教職大学院）が設置されています。

教育実践研究科（教職大学院）・・・定員　５０人
※　詳細は「教育実践研究科（教職大学院）募集要項」を参照してください。

２　出　願　資　格

次の各号のいずれかに該当する者

(1) 大学を卒業した者，及び平成30年３月卒業見込みの者

(2) 平成30年３月までに大学に３年以上在学し，又は外国において学校教育における15年の課程を修了し，本学大学院において，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(3) 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者，及び平成30年３月までに授与される見込みの者

(4) 外国において,学校教育における16年の課程を修了した者,及び平成30年３月までに修了見込みの者

(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者，及び平成30年３月までに修了見込みの者

(6) 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けされた教育施設にあって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者，又は平成30年３月までに修了見込みの者

(7) 専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者又は平成30年３月までに修了見込みの者

(8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第５号）

(9) 学校教育法第102条第２項の規定により大学院に入学した者（大学院への飛び入学者）であって，当該者をその後に入学させる大学院において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者及びそれに準ずる者

(10) 本学大学院において，個別の出願資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，平成30年３月31日までに22歳に達する者

〔注１〕 出願資格(8)「文部科学大臣の指定した者」（昭和28年文部省告示第５号）のうち，同告示第10号，第11号及び第12号による者とは，次の者を指します。

告示第10号　小，中，高，幼の教諭若しくは養護教諭の専修免又は一種免を有する者で22歳に達した者

告示第11号　国立養護教諭養成所卒　中学校教諭又は養護教諭の専修免又は一種免を有する者

告示第12号　国立工業教員養成所卒　高免及び３年以上教員として勤務した者

〔注２〕 出願資格(2)又は(10)により出願する者は，出願資格の事前審査を行います。29ページ及30ページの詳細を参照してください。

３　出　願　期　間　※郵送のみ

平成３０年２月１９日（月）から２月２３日（金）まで
出願書類の提出は郵送に限ります。２月２３日（金）１９時までに必着のこと。

ただし，２月２１日（水）以前の郵便局受付印（消印）のある「書留速達」に限り，期限後に到着したものでも受理します。

４　出　願　手　続

志願者は，次の出願書類を一括して提出してください。（封筒の表に「大学院○○専攻出願書類在中」と朱書し，必ず**書留郵便**で送付してください）

(1) 出願書類

※本学指定の様式は大学Webサイトに掲載しているものをプリントアウトして作成してください。

名　　称		該 当 者	摘　　要
①	入学志願票・受験票	全員	・本学所定の様式 ・記入例を参照し，必要事項をもれなく記入すること。 ・志願票及び受験票の所定枠に同一顔写真を剥がれないように貼り付けること。
②	大学の卒業 （見込）証明書	全員	・原本に限る，**コピー不可** ・日本国外の大学を卒業した者で，原本を提出できない者は，公的証明機関〔例：中国の場合は公証処〕が証明した「写」を提出すること。公的証明機関の証明のない「写」の場合は，出願を受理しない。 **・婚姻等の事情により証明書と姓が異なる場合は，戸籍抄本を併せて提出してください。**

③	大学の成績証明書	全員	・原本に限る，**コピー不可** ・出身大学の学長又は学部長が作成し，厳封されたものを提出すること。ただし，証明書自動発行機などで発行されたもので，複写防止用紙で作成された成績証明書は厳封する必要はありません。 ・編入学等により最終学歴の証明に認定となっている場合は，編入前の大学の成績証明書も併せて提出してください。 ・日本国外の大学を卒業した者で，原本を提出できない者は，公的証明機関〔例：中国の場合は公証処〕が証明した「写」を提出すること。公的証明機関の証明のない「写」の場合は，出願を受理しない。 **・婚姻等の事情により証明書と姓が異なる場合は，戸籍抄本を併せて提出してください。**
④	入学検定料受付証明書貼付票・写真票	全員 ※１	**※入学検定料（30,000円）** ・本学所定の様式に必要事項を記載し，平成３０年２月９日（金）から平成３０年２月２３日（金）までの間に検定料を払い込み，切り離さずに提出すること。 ・写真票には，志願票及び受験票と同一顔写真を剥がれないように貼り付けること。 Webサイトに掲載している様式を使用する場合 ゆうちょ銀行もしくは郵便局に用意してある**「払込取扱票」「振替払込請求書兼受領証」**に必要事項を記入し，ゆうちょ銀行または郵便局の窓口に現金を添えて振り込み，検定料(30,000円)を払い込んだことを証明する**「振替払込請求書兼受領証」**（日附印があるもの）の**コピー**を「入学検定料受付証明書貼付票」の所定の欄に貼り付けて，出願書類と一緒に提出してください。（払込手数料は本人負担，ＡＴＭは不可） ※１　なお，東日本大震災（平成２３年３月）及び熊本地震（平成２８年４月）関連で被災又は避難されている学資負担者又は志願者は，入学検定料が免除になることがありますので，入学検定料を支払う前の，出願開始日１週間前までに本学Webサイト「入学検定料の免除について」（http://www.aichiedu.ac.jp/exam/info/kentei_menjyo.html）を確認の上，申請してください。 ＊検定料の返還については14ページ「枠外補足説明＊１」を参照すること。
⑤	論文	全員	各専攻・領域ごとに指定された本学所定の様式を使用すること。パソコン等でも記入可とする。 用紙が不足する場合は，該当様式を複写して使用すること。 ＊各専攻・領域の指定内容は，14～15ページの「枠外補足＊２」を参照すること。
⑥	教育研究業績書	特例措置Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを志望する者 ※２	本学所定の様式による「教育研究業績書」を，その全ての原本〔原本を提出できない場合は写し〕とともに提出してください。ただし，「教育研究業績書」を提出することができない場合は，⑦「教育研究又は社会的活動等報告書」に代えることができます（両方の提出も可）。 なお，用紙が不足する場合は，該当様式を複写して使用してください。 ※ 出願提出書類は一切返還しないので注意してください。 ※２　特例措置Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては16ページ「６．選抜方法」を参照すること。
⑦	教育研究又は社会的活動等報告書	特例措置Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを志望する者で ◆ ⑥を提出できない者 ※２	本学所定の様式による「教育研究又は社会的活動等報告書（以下「報告書」という）」を提出してください。 なお，報告書は活動内容等を文章化して3,000字程度にまとめ，可能な限り活動内容等を裏付ける資料を添付してください。 なお，用紙が不足する場合は，該当様式を複写して使用してください。 ※　出願提出書類は一切返還しないので注意してください。 ※２　特例措置Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては16ページ「６．選抜方法」を参照すること。
⑧	受験票送付用封筒	全員	長形３号の封筒を用意し，郵便番号・住所・氏名を記入し，**３６２円分**の切手を貼付けてください。

⑨	**宛名票**	全員	本学所定の様式に，受験案内及び合格通知書等の受け取り先の郵便番号・住所・氏名を明記してください。
⑩	**事前審査結果通知書**	「２．出願資格(2)・(10)」で出願する者	２月２日（金）の入学資格事前審査の申請期限までに必要書類を郵送し，審査を受けてください。審査後本学より郵送された事前審査結果通知書を送付します。出願時に事前審査結果通知書の本紙（コピー不可）を提出してください。詳細は29～30ページを参照してください。
⑪	その他	該当者	15ページ「枠外補足説明＊３」を参照すること。

【補足説明】

＊１　入学検定料の返還について

払い込まれた検定料は，次の場合を除き返還しません。

(ｱ) 出願書類を提出しなかった場合　　(返還額：振込手数料を差引いた額)
(ｲ) 検定料を誤って二重に払い込んだ場合　(返還額：振込手数料を差引いた額)
(ｳ) 出願書類が受理されなかった場合　　(返還額：振込手数料を差引いた額)

＊検定料の返還請求方法
・上記（ｱ）又は（ｲ）の場合
本学**財務課出納係　TEL 0566-26-2147**へ申し出てください。
・上記（ｳ）の場合
本学よりその旨を連絡します。

＊２　⑤論文　について

専　攻 （領域・分野）	内　容 ※各専攻ごとに２項目を課す。	様　式
特別支援教育科学	◆ 大学の卒業論文（若しくは進行中の卒業論文）の概要，又は主な研究の概要（1,500字程度） ◆ 入学後の研究計画の概要（1,000字程度）	⑤－Ａ
国語教育	◆ 大学の卒業論文の写，又は主な研究（進行中の卒業論文を含む）の概要（3,000字程度） ◆ 入学後の研究計画の概要（1,500字程度）	⑤－Ａ
英語教育	◆ 大学の卒業論文の写と概要,又は現在行っている研究の概要（概要はいずれも3,000字程度） ◆ 入学後の研究計画の概要(1,500字程度)	⑤－Ａ
社会科教育	◆ 大学の卒業論文の写，又は主な研究（進行中の卒業論文を含む。）の概要（2,000字～4,000字） ◆ 入学後の研究計画の概要（1,500字以内）	⑤－Ａ
数学教育	◆ 大学の卒業論文（若しくは進行中の卒業論文）の概要，又は主な研究の概要（2,000字～4,000字） ◆ 入学後の研究計画の概要(1,500字程度)	⑤－Ａ
理科教育	◆ 大学の卒業研究（若しくは進行中の卒業研究）又は卒業後現在までの研究の概要 ◆ 入学後の研究計画の概要	⑤－Ｄ
芸術教育 （音楽分野）	◆ 大学の卒業論文（若しくは進行中の卒業論文）の概要，又は主な研究の概要（3,000字程度） ◆ 入学後の研究計画の概要（1,500字程度）	⑤－Ａ

芸術教育 （美術分野）	◆ 大学の卒業論文（若しくは進行中の卒業論文）の概要，又は研究の概要 （3,000字程度） ◆ 入学後の研究計画の概要（1,500字程度）	⑤－A
家政教育	◆ 大学の卒業論文（若しくは進行中の卒業論文）の概要，又は主な研究の概要 （3,000字程度） ◆ 入学後の研究計画の概要（1,500字程度）	⑤－A
技術教育	◆ 大学の卒業論文（若しくは進行中の卒業論文）の概要，又は主な研究の概要 （1,000字程度） ◆ 入学後の研究計画の概要（1,000字程度）	⑤－A

＊３　⑪その他

(ｱ)「２　出願資格」の(3)で出願しようとする者のうち，学位規則第６条第１項の規定に基づき大学改革支援・学位授与機構が定めている要件を満たすものとして認定を受けている専攻科の修了見込み者で，学士の学位の授与を申請する予定の者は，次の証明書を提出してください。

・修了見込証明書

・学士の学位の授与を申請する予定である旨の所属長の作成した証明書

(ｲ)「２　出願資格」が(8)「文部科学大臣の指定した者」（昭和28年文部省告示第５号）のうち，同告示第10号，第11号及び第12号による者は，その該当する各号により必要とする次の証明書を提出してください。

・教育職員免許状授与証明書又は所属長により原本証明された免許状の写し（告示第10，11，12号）

・良好な成績で勤務した旨の実務証明責任者の証明書　（告示第12号）

（注）　告示第10号　小，中，高，幼の教諭若しくは養護教諭の専修免又は一種免を有する者で22歳に達した者
告示第11号　国立養護教諭養成所卒　中学校教諭又は養護教諭の専修免又は一種免を有する者
告示第12号　国立工業教員養成所卒　高免及び３年以上教員として勤務した者

(ｳ)長期履修を希望する方は，**「長期履修希望調査書」**を提出してください。

(2) 出　願　先

〒448-8542　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１　愛知教育大学 入試課

(3) そ　の　他

① 身体の障害等の理由により，受験及び修学上の配慮を希望する者若しくは不安を感じる者は，必要に応じ，本学において志願者と事前相談を行いますので，平成３０年２月２日（金）までに本学に申し出てください。なお，障害等のある志願者やこの事前相談により，選抜の際に不利に扱われることはありません。

② 出願書類提出後は記入事項の変更を認めません。又，いったん受理した出願書類は返還しません。

③ 現に学校，官公署その他民間会社等に在職中の者で現職のまま本学大学院に入学をしようとする者は，出願時にその旨について，所属長の承諾を得ておいてください。また志願票に承諾の有無を記入してください。（入学手続時に「所属長の承諾書」が必要となります。ただし，教育委員会からの派遣による現職教員等は「所属長の承諾書」の提出は不要です。）

なお，現職教員等で現職のまま本学大学院に入学しようとする者は，学校運営を考慮して，受験に際して学校長等と職務上の調整をしておくことが望まれます。

④ 本学は，本学大学院の入学資格を有する者で，職業を有している等の事情により，標準修業年限（２年）を超えて長期にわたり修業する長期履修学生制度があります。この制度の概要は，28ページを参照してください。

⑤ 書類に不備がある場合，受理しないことがあります。

５　受験票の交付

受験票は，受験案内を同封して**平成３０年３月１日（木）頃**に発送します。

６　選　抜　方　法

入学者の選抜は，本学が行う学力検査及び出身大学長（学部長）から提出される成績証明書等を総合して行います。なお，選抜の種類と志願者の区分は次のとおりです。

①　選抜の種類

選抜の種類	検査科目
一般選抜	学力検査として領域別外国語科目，専攻に関する科目及び口述試験を課します。
特例措置Ⅰ （現職教員等）	学力検査に替えて，小論文（芸術教育専攻では実技を課します），教育研究業績等及び口述試験を課します。
特例措置Ⅱ （教育委員会派遣現職教員）	
特例措置Ⅲ （社会人）	

（注１）特例措置Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを受ける者は，「教育研究業績書等（13ページ⑥教育研究業績書，又は13ページ⑦教育研究又は社会的活動等報告書を参照）」を提出してください。

各専攻における特例措置の適用について

※　下記の表において，○　は該当の特例措置を実施することを示します。
　　×　は該当の特例措置を実施しないことを示します。

専　　攻	志望する分野・領域・コース	特例措置Ⅰ	特例措置Ⅱ	特例措置Ⅲ
芸術教育専攻	音楽科内容学	○	○	×
	美術分野の全領域	○	○	○
上記以外の専攻	全領域	○	○	○

②　志願者の区分

一般志願者　……一般選抜により受験します。

現職教員等　……原則として特例措置Ⅰにより受験します。
ただし，一般選抜又は特例措置Ⅲにより受験することもできます。

教育委員会派遣現職教員等　……原則として特例措置Ⅱにより受験します。
ただし，一般選抜，特例措置Ⅰ又は特例措置Ⅲにより受験することもできます。

社　会　人　……原則として特例措置Ⅲにより受験します。
ただし,一般選抜により受験することもできます。

（注1）　**現職教員等**

現職教員及び教育関係諸機関に常勤職員として在籍している者で，平成30年３月末日現在において常勤として３年以上の経験を有する者

（現職教員には**保育所勤務の保育士を含みます**。）

経験年月数は平成30年４月１日現在で算出し，それ以前に退職する予定の時は退職予定日とします。

（経験年月数が１カ月未満の場合は，１カ月に切り上げて計算します。）

なお，休職期間は経験年月数に算入しません。

また，**「期限付き任用による常勤職員」及び「臨時的任用職員」等は上記の常勤職員に含みません。**

（注2）　**教育委員会派遣現職教員等**

現職教員及び教育関係諸機関に在籍している者で，都道府県教育委員会及び指定都市教育委員会から本学大学院への派遣を推薦された者

（注3）　**社　会　人**

出願時において，大学卒業後３年以上経過している者

「大学卒業」には，次の各号のいずれかに該当する者を含みます。

(1)学校教育法第68条の２第３項の規定により学士の学位を授与された者
(2)外国において学校教育における16年の課程を修了した者
(3)外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより，当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
(4)文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第５号）
(5)本学大学院において，個別の出願資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で22歳以上に達した者

(1) 学力検査期日 …… **平成３０年３月１１日（日）**

学力検査時間割（一般選抜）

期日	志望の専攻	志望の領域	領域別外国語科目	専攻に関する科目	口述試験 実技検査
３月１１日（日）	特別支援教育科学専攻	全領域	11:00 ～ 12:00	13:00 ～ 15:00	16:00 ～*2
	国語教育専攻	全領域			
	英語教育専攻	全領域			
	社会科教育専攻	全領域			
	数学教育専攻	全領域			
	理科教育専攻	全領域			
	芸術教育専攻(音楽分野)	内容学領域			
	芸術教育専攻(美術分野)	全領域			
	家政教育専攻	全領域			
	技術教育専攻	全領域			

学力検査時間割（現職教員等の特例措置Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）

期日	志望の専攻	小論文	口述試験・実技検査
３月１１日(日)	全ての専攻	14:00 ～ 15:00	16:00 ～*2

*1 詳細は受験案内にて通知します。
*2 志願者数等の状況により，口述試験・実技試験の日時を変更することがあります。
*3 芸術教育専攻(美術分野)の口述試験については，２３ページを参照してください。
*4 災害等により学力検査の日時を変更する場合は，本学Ｗｅｂサイトにて詳細を公表します。

(2) 学力検査場
愛知教育大学 （詳細は受験案内で通知します。）

(3) 学力検査科目 （領域別外国語科目及び専攻に関する科目）

・領域別外国語科目における辞書の使用について（全専攻共通）

領域別外国語科目の受験に当たっては，辞書（各自で用意，大学では貸与不可）の使用を可としますが，電子辞書の使用は不可とします。また，英語教育専攻の志望者が英語を選択する場合は，辞書の使用を不可とします。

なお，辞書とは選択した外国語科目の翻訳等に関するもの（例・英和辞典，和英辞典）であり，用語事典等は使用を認めません。

ア．特別支援教育科学専攻

（注）◎は必須科目です。

・特別支援教育……障害者に関する教育学，心理学，病理・保健学，福祉学等全般より出題

志望領域	領域別外国語科目	専攻に関する科目	口述試験
特別支援教育科学	**◎英語**	**◎特別支援教育**	実施する

イ．国語教育専攻

（注）◎は必須科目です。

○印のついている科目は出願時にいずれかの科目を選択し，志願票に記入してください。

・国語科教育……国語科教育全般より出題

志望領域	領域別外国語科目	専攻に関する科目	口述試験
国語科教育学	**○英語** **○中国語** **１科目選択**	**◎国語科教育Ａ** **○国語学Ｂ** **○国文学Ｂ（古典文学）** **○国文学Ｂ（近代文学）** **○漢文学Ｂ** **１科目選択**	全領域で実施する
国語科内容学		**○国語学Ａ** **○国文学Ａ（古典文学）** **○国文学Ａ（近代文学）** **○漢文学Ａ** **入学後の研究分野に当たると思われる１科目を選択** **○国語科教育Ｂ** **○国語学Ｂ** **○国文学Ｂ（古典文学）** **○国文学Ｂ（近代文学）** **○漢文学Ｂ** **１科目選択**	

ウ．英語教育専攻

（注１）◎は必須科目です。

○印のついている科目は出願時にいずれかの科目を選択し，志願票に記入してください。

（注２）領域別外国語科目で英語を選択した場合，辞書の使用を認めません。

志望領域	領域別外国語科目	専攻に関する科目	口述試験
英語科教育学	**○英語** **○ドイツ語** **○フランス語** **１科目選択**	**◎英語科教育Ａ** **○英語科教育Ｂ** **○英米文学Ｂ** **○英語学Ｂ** **１科目選択**	全領域で実施する
英語科内容学		**◎英語科内容学** **○英米文学Ａ** **○英語学Ａ** **１科目選択** **○英語科教育Ｂ** **○英米文学Ｂ** **○英語学Ｂ** **１科目選択**	

エ．社会科教育専攻

（注）◎は必須科目です。
　　○印のついている科目は出願時にいずれかの科目を選択し，志願票に記入してください。

・社会科内容学領域を志願する者は，**「哲学・倫理学」「歴史学・民俗学」「地理学・地誌学」「社会科学」「国際文化」**の５分野の中から入学後に専攻する分野を選んで志願票に記入してください。

・ドイツ語，フランス語，中国語 ‥‥社会科内容学領域の「国際文化」を志望する者のみ選択可能
・社会科教育Ａ・Ｂ‥‥‥‥‥‥‥‥社会科教育全般より出題
・国際文化‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥アジア文化Ａ・Ｂ，ヨーロッパ文化Ａ・Ｂには，辞書の使用を可とする問題を含む。

<table>
<tr><th>志望領域</th><th>領域別外国語科目</th><th colspan="2">専攻に関する科目</th><th>口述試験</th></tr>
<tr><td>社会科
教育学</td><td>◎英語</td><td colspan="2">◎社会科教育Ａ

○社会科教育Ｂ
○法律学Ｂ
○哲学・倫理学Ｂ
○歴史学・民俗学Ｂ
○社会学Ｂ
○地理学・地誌学Ｂ　１科目選択</td><td rowspan="6">全領域で実施する</td></tr>
<tr><td rowspan="5">社会科
内容学</td><td rowspan="5">○英語
○ドイツ語※
○フランス語※
○中国語※
１科目選択

※ドイツ語，
フランス語，
中国語は
「国際文化」
志望者のみが
選択可能です。</td><td>哲学・倫理学</td><td>◎哲学・倫理学Ａ

○社会科教育Ｂ
○哲学・倫理学Ｂ　１科目選択</td></tr>
<tr><td>歴史学
・
民俗学</td><td>◎歴史学・民俗学Ａ

○社会科教育Ｂ
○歴史学・民俗学Ｂ　１科目選択</td></tr>
<tr><td>地理学
・
地誌学</td><td>◎地理学・地誌学Ａ

○社会科教育Ｂ
○地理学・地誌学Ｂ　１科目選択</td></tr>
<tr><td>社会科学</td><td>◎社会科学　○法律学Ａ
○社会学Ａ　入学後の研究分野に該当する科目を選択

○社会科教育Ｂ
○法律学Ｂ
○社会学Ｂ　１科目選択</td></tr>
<tr><td>国際文化</td><td>◎国際文化　○日本文化Ａ
○アジア文化Ａ
○ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化Ａ　入学後の研究分野に該当する科目を選択

○社会科教育Ｂ
○日本文化Ｂ
○アジア文化Ｂ
○ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化Ｂ　１科目選択</td></tr>
</table>

オ．数学教育専攻

（注）◎は必須科目です。
　　○印のついている科目は出願時にいずれかの科目を選択し，志願票に記入してください。
　　☆印のついている科目は試験当日に受験科目を選択します。

・数学科教育……数学科教育一般より出題
・数 学 基 礎……線形代数（ベクトル空間を含まない）または微分積分（多変数の微分積分を含まない）より１題選択して解答
・数　　学……線形代数（ベクトル空間を含む）より１題，微分積分（多変数の微分積分を含む）より１題，計２題を選択して解答
・情 報 科 学……情報基礎，計算機科学，教育情報学，情報数学より出題

志望領域	領域別外国語科目	専攻に関する科目	口述試験
数学科教育学	◎英語	◎数学科教育 ☆数学科教育 ☆数学基礎 ☆情報科学　１科目を試験当日に選択	全領域で実施する
数学科内容学	◎英語	○数学 ○情報科学　１科目を出願時に選択 ☆数学科教育 ☆数学基礎 ☆情報科学　１科目を試験当日に選択	全領域で実施する

カ．理科教育専攻

（注）◎は必須科目です。
　　○印のついている科目は出願時にいずれかの科目を選択し，志願票に記入してください。

・理科教育……理科教育全般より出題
・物 理 学……物理学一般より出題
・化　　学……化学一般より出題
・生 物 学……生物学一般より出題
・地　　学……地学一般より出題

志望領域	領域別外国語科目	専攻に関する科目	口述試験
理科教育学	◎英語	◎理科教育Ａ ○理科教育Ｂ ○物理学Ｂ ○化学Ｂ ○生物学Ｂ ○地学Ｂ　１科目選択	全領域で実施する
理科内容学	◎英語	◎理科内容学　○物理学Ａ／○化学Ａ／○生物学Ａ／○地学Ａ　１科目選択 ◎理科教育又は理科内容学　○理科教育Ｂ／○物理学Ｂ／○化学Ｂ／○生物学Ｂ／○地学Ｂ　１科目選択	全領域で実施する

キ．芸術教育専攻（音楽分野）

※音楽科教育学領域，音楽科内容学領域（声楽）は３次募集を行いません。

（注）◎は必須科目です。

・音楽科内容学（**「ピアノ」・「作曲」**の中から入学後の主たる専攻分野を選択して志願票に記入してください。）

全ての専攻分野に実技試験と音楽科教育一般に関する試験を課す。

ピアノ……1)バッハ平均律クラヴィア曲集第Ⅰ巻，第Ⅱ巻よりプレリュードとフーガ
2)任意のエチュードより１曲
3)任意のピアノ曲（１５分以内）
1)，2)，3)より１曲ずつ，計３曲演奏すること。

作　曲……1)，2)合わせて１２０分の試験を課す。
1)与えられたバス及びソプラノ声部により，それぞれ四声体の和声を作ること。（各８～１０小節。近親転調は含まない。）
2)当日与えられる動機により，三部形式程度のピアノ曲を作曲すること。
五線紙は所定のものを用意するが，楽器を用いての作曲は不可。

※ 伴奏を必要とする者は，試験日に伴奏者を同伴してください。ただし，希望により伴奏者を大学側に一任することができます。その場合，願書にその旨を記入し，願書出願時に伴奏譜を提出してください。

志望領域	領域別外国語科目	専攻に関する科目		口述試験
音楽科内容学	**◎英語**	ピアノ	**◎ピアノ** **◎音楽科教育**	実施する
		作　曲	**◎作曲** **◎音楽科教育**	

ク．芸術教育専攻（美術分野）

（注）◎は必須科目です。
　　○印のついている科目は出願時にいずれかの科目を選択し，志願票に記入してください。
　　A‥‥‥専門的設問，　B‥‥‥基礎的設問
・美術科教育‥‥‥美術教育理論に関する出題
・美　術　史‥‥‥美術史に関する出題
・平 面 造 形‥‥‥平面造形実技に関する出題
・立 体 造 形‥‥‥立体造形実技に関する出題

<table>
<tr><th>志望領域</th><th>領域別外国語科目</th><th colspan="2">専攻に関する科目</th><th>口述試験</th></tr>
<tr><td>美術科
教育学</td><td rowspan="3">◎英語</td><td colspan="2">◎美術科教育Ａ
◎実技〔 ○平面造形Ｂ
○立体造形Ｂ 〕１科目選択</td><td rowspan="3">全領域で実施する※</td></tr>
<tr><td rowspan="2">美術科
内容学</td><td>実技系</td><td>◎実技〔 ○平面造形Ａ
○立体造形Ａ 〕１科目選択
◎美術科理論〔 ○美術科教育Ｂ
○美術史Ｂ 〕１科目選択</td></tr>
<tr><td>理論系</td><td>◎美術史Ａ
◎実技〔 ○平面造形Ｂ
○立体造形Ｂ 〕１科目選択</td></tr>
</table>

※口述試験について

芸術教育専攻美術分野の口述試験には，事前に準備して頂く資料がありますので下記を参照し，当日資料を持参してください。

<table>
<tr><td>芸術教育専攻
美術分野</td><td>口述試験の中で，受験時点までに行ってきた研究や制作の内容と，合格後に大学院生として取り組もうとする研究や制作について，一人10分程度のプレゼンテーションをして頂きます。その際，プレゼンテーションに関わるデータの入ったパソコンや資料など必要なものを各自で持参してください。資料を持参する方は，同じものを５部用意してください。
また，美術科内容学領域の実技系を選択する方は，ポートフォリオ（これまで制作した作品の写真等を整理したファイル）及び過去１年以内に製作した実物を，口述試験の際に持参してください。
＊実物作品については，以下の規定に従うものとします。
絵　　画・・・100号以内の作品１点
彫　　刻・・・縦，横，奥行きの合計が６ｍ以内の作品１点
デザイン・・・デザインに関する作品１点
工　　芸・・・工芸に関する作品１点</td></tr>
</table>

ケ．家政教育専攻

（注）◎は必須科目です。
　　○印のついている科目は出願時にいずれかの科目を選択し，志願票に記入してください。

・家庭科教育‥‥‥‥家庭科教育全般より出題
・家庭科内容学‥‥‥次の出題分野から出題
　　食物学‥‥‥‥食品学，栄養学及び調理学より出題
　　被服学‥‥‥‥被服学より出題
　　家庭経営学‥‥家庭経営学，家庭経済学及び家庭関係学より出題

　家庭科内容学領域を志望する者は，志願票の志望の専攻及び分野・領域欄に上記の出題分野から志望する出題分野を選択し記入することとします。これが専攻に関する科目の必修科目となります。

　また，選択科目として家庭科内容学を受験する場合についても，志願票の受験科目の専攻に関する科目（選択する科目）欄に上記の出題分野から１つを選択し記入することとします。（必修科目と重複する出題分野を選択しても構いません。）

<table>
<tr><th>志望領域</th><th>領域別外国語科目</th><th>専攻に関する科目</th><th>口述試験</th></tr>
<tr><td>家庭科
教育学</td><td rowspan="2">◎英語</td><td>◎家庭科教育Ａ

○家庭科教育Ｂ
○家庭科内容学Ｂ　（食物学）
○家庭科内容学Ｂ　（被服学）
○家庭科内容学Ｂ　（家庭経営学）　１科目選択</td><td rowspan="2">全領域で実施する</td></tr>
<tr><td>家庭科
内容学</td><td>◎家庭科内容学Ａ　○食物学
○被服学
○家庭経営学　１科目選択

○家庭科教育Ｂ
○家庭科内容学Ｂ　（食物学）
○家庭科内容学Ｂ　（被服学）
○家庭科内容学Ｂ　（家庭経営学）　１科目選択</td></tr>
</table>

コ．技術教育専攻

（注）◎は必須科目です。
　　○印のついている科目は出願時にいずれかの科目を選択し，志願票に記入してください。

・技術科教育Ａ
・技術科教育Ｂ　］技術科教育全般より出題

・技術科内容学Ａ
・技術科内容学Ｂ　］次の出題分野から出題　◇電気　◇機械　◇栽培　◇情報

<table>
<tr><th>志望領域</th><th>領域別外国語科目</th><th>専攻に関する科目</th><th>口述試験</th></tr>
<tr><td>技術科
教育学</td><td rowspan="2">◎英語</td><td>◎技術科教育Ａ

○技術科教育Ｂ
○技術科内容学Ｂ　（電気）
○技術科内容学Ｂ　（機械）
○技術科内容学Ｂ　（栽培）
○技術科内容学Ｂ　（情報）　１科目選択</td><td rowspan="2">全領域で実施する</td></tr>
<tr><td>技術科
内容学</td><td>◎技術科内容学Ａ　（○電気
○機械
○栽培
○情報）　１科目選択

○技術科教育Ｂ
○技術科内容学Ｂ　（電気）
○技術科内容学Ｂ　（機械）
○技術科内容学Ｂ　（栽培）
○技術科内容学Ｂ　（情報）　１科目選択</td></tr>
</table>

(4) 配　　点

科　目　名	一般選抜	特例措置Ⅰ	特例措置Ⅱ	特例措置Ⅲ
領域別外国語科目	２００点			
専攻に関する科目	５００点			
小　論　文		２００点　*1	２００点　*1	２００点　*1
口 述 試 験	１００点　*2	２００点	４００点	２００点
教育研究業績等		４００点	２００点　*3	４００点
総　　点	**８００点**	**８００点**	**８００点**	**８００点**

*1 …… 芸術教育専攻では，小論文に替えて実技を課します。
*2 …… 一般選抜の口述試験の配点には，調査書・論文・作品等を含みます。
*3 …… 特例措置Ⅱの教育研究業績等の配点には，研究計画及び任命権者の推薦書を含みます。

７　合　格　者　発　表

日　　時　　**平成３０年３月２３日（金）１０時**
発表方法　　合格者の受験番号を愛知教育大学Webサイトに掲載します。
http://www.aichi-edu.ac.jp/exam/entrance/grad.html
「合格通知書」及び「入学手続関係書類」は，下記の交付場所にて直接交付します。
「合格通知書」及び「入学手続関係書類」は，郵送はされません。
また，電話その他による合否の照会には一切応じません。

交付時間・交付場所

日　　時	場　　所
平成３０年３月２３日（金）　１０：００～１７：００	愛知教育大学 入試課 （本部棟１階）
平成３０年３月２４日（土）　９：００～１６：００	
平成３０年３月２５日（日）　９：００～１５：００	
平成３０年３月２６日（月）　９：００～１５：００	

８ 入 学 手 続

入学手続は下記の日時・場所で行います。入学手続の詳細は合格通知書の交付時にお渡しします「入学手続要項」をご覧ください。

(1) 入学手続期間

日　　時	場　　所
平成３０年３月２５日（日）　９：００～１６：００ （ただし，１２：００～１３：００を除く）	愛 知 教 育 大 学
平成３０年３月２６日（月）　９：００～１６：００ （ただし，１２：００～１３：００を除く）	
平成３０年３月２７日（火）　９：００～１２：００	

上記期間内に手続をしなかった場合は，入学する意思がないものとして取り扱います。

○入学手続時に持参するもの

①入学手続関係書類　*1
②印鑑
③入学料等納入金　*2
④保証人（保護者等）の印鑑（保証書用）
⑤写真（4cm×3cm）１枚（学生カード用）
⑥入学資格を証明する書類（卒業見込で受験した者のみ，卒業証明書等）

入学手続に関するお問い合せ先
（全 般）
学生･国際課　TEL 0566-26-2176
（入学料等納入金関係）
財務課　TEL 0566-26-2147
（入学料･授業料免除関係）
学生･国際課　TEL 0566-26-2184

*1　合格通知書を交付する際にお渡しします。
*2　入学手続時までにゆうちょ銀行又は郵便局にて払込をされた方は必要ありません。

※合格発表から入学手続までの期間が短いので，写真等入学手続に必要な書類の準備に留意してください。

(2) 納入金（入学料・入学時諸費用・授業料）

納入金については，合格者宛てに送付する「入学手続要項」にて案内します。入学料と入学時諸費用及び授業料を納入してください。

入　学　料	２８２，０００円
入学時諸費用	３２，４３０円
（参考）授　業　料　　前期分	２６７，９００円

なお，入学時及び在学中に納入金の改定が行われた場合には，改定時から新入学料，新入学時諸費用及び新授業料を適用します。

(注) １．入学料及び入学時諸費用は，入学手続時までに必ず納入してください。
２．入学時諸費用は，通学中や実習などの活動中の事故等に係る保険料，教育研究活動，大学行事，就職，課外活動及び福利厚生への支援など様々な学生支援事業のための費用で，入学時のみの費用です。
３．授業料の納入については，入学手続要項において納入方法を指示します。
４．入学手続完了者がその後入学を辞退しても，納入済の入学料は返還しません。

９ 授 業 の 実 施 方 法

(1)「昼間開講コース」の学生の履修方法

「昼間開講コース」の学生は原則として，月～金曜日に刈谷キャンパスで昼間に開講される授業及び夏季休業等の長期休業期間に集中講義で開講される授業を履修します。

また，これらの他に夜間及び土曜日に開講される授業も履修することができます。

刈谷キャンパス昼間開講時間（月，火，水，木，金曜日）

第１時限　(9:10 ～ 10:40)　　第２時限　(10:50 ～ 12:20)
第３時限　(13:20 ～ 14:50)　　第４時限　(15:00 ～ 16:30)

(2) 「昼夜開講コース（主として夜間・土曜日に履修）」の学生の履修方法

学校教育臨床専攻を除く「昼夜開講コース」の学生は原則として，刈谷キャンパスにおいて火，水，金曜日の夜間並びに土曜日に開講される授業及び夏季休業等の長期休業期間に集中講義で開講される授業を履修します。

また，これらの他に，月～金曜日に刈谷キャンパスにおいて昼間に開講される授業も履修することができます。

学校教育臨床専攻の「昼夜開講コース」の学生は，刈谷キャンパスにおいて火，水，金曜日の夜間並びに刈谷キャンパスにおいて土曜日に開講される授業及び夏季休業等の長期休業期間に集中講義で

開講される授業を履修します。
また，上記の他，月～金曜日に刈谷キャンパスで昼間に開講される授業も履修することができます。
①刈谷キャンパス夜間開講時間（火，水，金曜日）
第６時限　（18:20 ～ 19:50）　　第７時限　（20:00 ～ 21:30）
②刈谷キャンパス土曜日授業開講時間（昼夜開講コース用として開講）
第１時限　（ 9:10 ～ 10:40）　　第２時限　（10:50 ～ 12:20）
第３時限　（13:20 ～ 14:50）　　第４時限　（15:00 ～ 16:30）

(3) 名古屋キャンパス（サテライト）での授業開講

（キャンパス夜間開講時間：火，水，金曜日　第６時限，第７時限）

刈谷キャンパスの他に，附属名古屋中学校を名古屋キャンパス（サテライト）として開設し，主に学校教育臨床専攻（リカレント・コース）の学生が修了するために必要な授業科目（発達教育科学専攻教育学領域科目，同専攻教育心理学領域科目，同専攻他領域科目，学校教育臨床専攻科目）の一部が開講されます。**※ここ数年はリカレント・コース学生がいないので閉講しています。**

愛知教育大学附属名古屋中学校　　名古屋市東区大幸南１－１２６

１０　過去の入試問題の閲覧について

過去３年間の大学院の入試問題を，愛知教育大学附属図書館にて閲覧することができます。
なお，閲覧の際はあらかじめ附属図書館Webサイト（http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/）にて，開館日・開館時間を確認してからお越しください。

１１　個人情報の取扱いについて

本学では，出願時に収集した個人情報（住所・氏名・生年月日等）を入学選抜，合格発表，入学手続及びこれらに付随する業務のために利用します。また，取得した個人情報は適切に管理し，利用目的以外には利用しません。

※　試験に関する問い合わせ

問い合わせ先　　〒448-8542　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１
愛 知 教 育 大 学　入 試 課
電話　０５６６－２６－２２０３・２２０２

★ 愛知県公立学校教員採用試験合格者における大学院進学による採用辞退者に対する特別選考について

平成３０年度愛知県公立学校教員採用試験に「合格」した者が，大学院・教職大学院に進学，または在学を理由として教員の採用を辞退する場合について，所定の手続きを経ることにより修了予定年度に行う採用試験において同一区分・教科で受験する場合に限り，第２次試験の口述試験（集団討議及び個人面接）で選考される特別選考があります。なお，この特別選考の詳細については，「教員採用試験受験案内」を確認の上，愛知県教育委員会にお問い合わせください。

※　上記特別選考は，２年間又は３年間（小学校教員免許取得コース）で大学院を修了する見込みの学生が対象となります。従って，長期履修学生（修業年限３～４年）は特別選考の対象外となります。

★ 名古屋市公立学校教員採用試験合格者における大学院在学による採用辞退者に対する特別措置について

平成２９年度実施名古屋市公立学校教員採用試験に「合格」した者が，大学院・教職大学院に引き続き平成３０年度も在学することを理由として教員の採用を辞退する場合について，所定の手続きを経ることにより平成３１年度に行う採用試験において同一区分・教科で受験する場合に限り，第２次試験の個人面接のみで選考される特別措置があります。なお，この特別措置の詳細については，「教員採用試験受験要項」を確認の上，名古屋市教育委員会にお問い合わせください。

※　上記特別措置は，小学校教員または中学校教員の区分で「合格」した学生が対象となります。

※　上記特別選考は，２年間で大学院を修了する見込みの学生が対象となります。従って，小学校教員免許取得コース（修業年限３年間），長期履修学生（修業年限３～４年）は特別選考の対象外となります。

★ 大学院設置基準（昭和４９年文部省令第２８号）第１４条に定める教育方法の特例による教育の実施について

本学教育学研究科では現職教員の研修の機会を広げるため，都道府県教育委員会の承認を得て，市町村教育委員会又は校長の命により派遣された現職教員である学生に対し，大学院設置基準第１４条に定める教育方法の特例に基づく教育を以下に示す方法により実施します。

［教育方法の特例による教育の概要］

①　１年次においては，在職校における勤務を離れて学業に専念し，通常の形態による授業及び研究指導を受け，課程修了に必要な３０単位のうち２２単位以上を修得します。

② ２年次においては，在職校に復帰し，勤務を続けながら夜間その他特定の時間又は時期において残りの単位を修得するとともに，修士論文作成のための研究指導を受けます。

［学力検査の特例措置］

学力検査の特例措置は，16ページの「６　選抜方法」をご参照ください。

（※　なお，現職教員であって現職を退職して入学し，学業に専念できる者はこれに該当しません。）

★ 大学院設置基準（昭和４９年文部省令第２８号）第１５条に定める長期にわたる教育課程の履修（長期履修学生制度）について

この制度は，職業を有している者の大学院進学の環境を改善するためのものです。

職業を有している者は一般的に学習に充てる時間に制約があり，通常の修業年限（２年）で修了に必要な単位を満たすこと，修士論文を作成することが困難であると考えられ，また，２年以上在籍するとさらに授業料等の負担も加わるのが従来の制度でした。

本学の長期履修学生制度は，２年間分の授業料で３年間又は４年間の在籍（勉学）を認めるものであり，職業を有する者の大学院での学習の充実をめざすものです。

［対象者］

① 職業を有し就業している方（自営業を含む），②中学生以下の子と同居し養育している方，
③ 要介護状態にある家族を介護している方を対象としています。

長期履修学生制度　（担当部署：教務課　0566-26-2697）

(1)　修業年限

長期履修学生としての申請（最長４年）に基づき審査を行い，許可された年数を修業年限とします。なお，修学状況等の変動により修業年限を短縮することも可能ですが，通常の修業年限（２年）より短縮することはできません。また，入学後（在学中）に申請することも可能ですが，この場合の適用は翌年度からになりますのでご注意ください。（授業料の適用も同様であり，既に確定している授業料と長期履修が認められた場合の授業料との差額は返還されません。）

(2)　授業料について

年額の授業料算出は，次のとおりとなります。（詳細は教務課へ問い合わせてください。）

国立大学法人愛知教育大学における授業料その他の費用に関する規則で定められた金額　×　標準修業年限（２年）÷　許可された修業年限

（参考）修業年限が４年で許可された者の授業料の年額

５３５，８００円 ×　２年　÷　４年　＝　２６７，９００ 円（年額）

(3)　対象者

①職業を有し就業している者（自営業を含む），**②中学生以下の子と同居し養育している者**，**③要介護状態にある家族を介護している者**を対象としています。不明な点は事前に教務課へ問い合わせてください。

(4)　申請方法

長期履修希望調査書に必要事項を記入のうえ，**①在職証明書又は在職が確認できる書類（臨時的任用は不可）**，**②子の年齢及び同居が確認できる書類**，**③家族が長期にわたり常時介護を必要とする状態にあることが確認できる書類**のうち，出願書類と併せて期限までに入試課へ提出してください。

(5)　申請期限

平成３０年２月２３日（金）

(6)　結果通知

合格発表時に申請者に対し，入学手続き前までに結果を通知します。

(7)　小学校教員免許取得コースの受講が許可された者

①修業年限

本コースの学生は，**長期在学制度**を適用して，修業年限を３年としています。

従って，**改めて長期履修希望調査書により申請する必要はありません。**

②授業料等の負担

大学院の授業料は，所定の修業年限（３年）分を徴収します。

また，大学院の授業とは別に，小学校教員免許状取得のために必要な学部の科目を履修することになりますが，そのための費用は不要です。

※　本申請書の提出により，選抜の際に不利に扱われることはありません。

１２ページ「２ 出願資格(2)による出願資格」の事前審査について

本出願資格による志願者は，下記１の要件を満たす見込みについての事前審査を行います。下記１の審査書類を平成３０年２月２日(金)までに入試課へ郵送してください。

記

1　平成30年３月までに「大学に３年以上在学し，又は外国において学校教育における15年の課程を修了し，本学大学院において，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者」とは次の条件を満たす者とします。

(1) 大学の３年次修了時点又は，教育制度が16年の課程を有している外国において学校教育の15年の課程を修了した時点で，次の条件をすべて満たす見込みであること。

① 在学期間について
休学期間を除き，大学在学期間が３年以上であること又は外国において学校教育の15年の課程以上の在学期間を有していること。

② 修得単位数について
上記に定める期間において，修得する必要のあるすべての科目を含め，卒業（修了）要件単位数の80%以上を修得していること。

③ 学業成績について
上記に定める修得単位数において，修得単位数の90%以上が最上位(点数評価の場合は85点以上)を得ること。

(2) 教育制度が15年の課程を有している外国における学校教育の課程修了者については，修得単数の90%以上が最上位（点数評価の場合は85点以上）を得ること。

2　事前審査提出書類

【大学に３年以上在学した者】

(1) 入学試験出願資格事前審査申請書（本学所定の用紙）　１部
(2) 在学証明書
（なお，３年次修了後に在学期間証明書及び退学許可書の提出が必要となります）　１部
(3) 履修の手引き等の教授要目　１部
(4) ２年次までの成績証明書及び３年次の履修状況表
（なお，３年次修了後に３年次までの成績証明書の提出が必要となります）　１部
(5) 推薦書（本学所定の用紙）　１部
(6) 返信用封筒　１部
（事前審査の結果を通知するので，定形〔長形３号〕封筒に，受験を希望する者の住所，氏名，郵便番号を明記し,362円切手を貼ったものを提出してください）

なお，必要に応じて各種証明書等の追加提出を求めることがあります。

【外国において学校教育における15年の課程を修了した者】
提出書類の詳細については，入試課にお問い合わせください。

3　その他

(1) 事前審査の結果については，平成３０年２月１４日（水）頃までに本人あてに通知します。
なお，出願資格を認められた者が受験を希望する場合は，12ページの「４　出願手続（1)出願書類」による書類を出願期間内に提出してください。
(2) 本出願資格により入学試験を受験し，合格と判定された者が，平成30年３月までに，前記１の要件を満たさない場合は，入学を許可しません。
(3) 本出願資格により入学する者は，在籍している大学の学部を退学することとなります。
したがって，教員免許状（専修免許状）の取得が困難になる場合があること及び国家試験等の受験資格で，大学を卒業することが条件となっているものについては，受験資格を失うことになりますので注意してください。

１２ページ「２　出願資格(10)による出願資格」の事前審査について

本出願資格による志願者は，出願資格の可否の事前審査を行います。
下記の審査書類を平成３０年２月２日(金)までに入試課へ郵送してください。

記

１　事前審査提出書類

(1) 入学資格審査申請書（本学所定の用紙）　１部
(2) 履歴書（本学所定の用紙）　１部
(3) 最終学歴の卒業証明書**※**　１部
(4) 最終学歴の成績証明書**※**　１部
(5) 学習歴，実務・活動経験歴，資格等を証明するもの　１部
(6) 返信用封筒　１部
（事前審査の結果を通知するので，定形〔長形３号〕封筒に，受験を希望する者の住所，氏名，郵便番号を明記し,362円分の切手を貼ったものを提出してください）

なお，必要に応じて各種証明書等の追加提出を求めることがあります。

※ 婚姻等の事情により証明書と姓が異なる場合は，戸籍抄本を併せて提出してください。

２　その他

(1) 事前審査の結果については，平成３０年２月１４日（水）頃までに本人あてに通知します。
なお，出願資格を認められた者が受験を希望する場合は，12ページの「４　出願手続（(1)出願書類」による書類を出願期間内に提出してください。**（各種証明書等は再度提出していただきますのでご承知おき下さい。）**

(2) **出願資格の事前審査は毎試験行います。よって過去の試験において事前審査を受けた者も再度書類を提出してください。**

平 成 ３ ０ 年 度

大学院教育学研究科　外国人学生特別選抜

愛 知 教 育 大 学 大 学 院

Ⅱ　外国人学生特別選抜学生募集要項

GRADUATE SCHOOL OF AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION
APPLICATION GUIDE FOR INTERNATIONAL STUDENTS
FOR THE 2018 ACADEMIC YEAR

趣　　旨　OBJECTIVES

教育・研究の国際交流，特に留学生を通じての高等教育段階における交流は，我が国と諸外国相互の教育，研究水準を高めるとともに国際理解，国際協調の精神を醸成し，その推進に寄与するものと考えられます。この趣旨によって本学大学院教育学研究科は，一般の入学者選抜方法とは別の選抜方法により，外国人学生を対象とした特別選抜を実施するものです。

International academic exchange at postgraduate level is instrumental for the advancement of learning and scientific research in the world. It also contributes to promotion of cross-cultural understanding and international cooperation. In order to achieve these objectives, the graduate school of Aichi University of Education offers, apart from the procedure and timetable for candidates applying from Japan, an entrance examination to applicants from overseas.

1　募集人員　Number of students to be admitted

Specialty (Table)

専　　攻 Specialty	領　　域 Area Specialisation (& Field)	募集人員 Number of students to be admitted
特別支援教育科学専攻 Special Support Education	特別支援教育科学　Special Support Education	各専攻若干名 A limited number in each specialty
国語教育専攻 Japanese Education	国語科教育学　Theory and Practice in Japanese Language Teaching 国語科内容学　Fundamentals in Japanese Language Teaching	

専　攻 Specialty	領　域 Area Specialisation (& Field)		募集人員 Number of students to be admitted
英語教育専攻 English Education	英語科教育学　Theory and Practice in Teaching English as a Foreign Language 英語科内容学　Fundamentals in Teaching English as a Foreign Language		各専攻若干名 A limited number in each specialty
社会科教育専攻 Social Studies	社会科教育学　Theory and Practice in Social Studies 社会科内容学　Fundamentals in Social Studies 哲学・倫理学 Philosophy/Ethics 歴史学・民俗学 History/Ethnography 地理学 Geography 社会科学 Social Sciences 国際文化 Intercultural Studies 社会科内容学志望の者は，入学後の専攻分野を１つ選択 Those applying for Fundamentals in Social Studies, choose one field of studies after enrollment. 社会科教育学領域の出願者は，入学後の専攻分野の記入はしないこと Applicants of areas in Theory and Practice in Social Studies, do not mark the fields of studies after enrollment.		
数学教育専攻 Mathematics Education	数学科教育学　Theory and Practice in Teaching Mathematics 数学科内容学　Fundamentals in Teaching Mathematics		
理科教育専攻 Science Education	理科教育学　Theory and Practice in Teaching Science 理科内容学　Fundamentals in Science		
芸術教育専攻 Art Education	音楽分野 Music	音楽科内容学（ピアノ，作曲） Fundamentals in Teaching Music （ Piano , Composition ）	
	美術分野 Fine Arts	美術科教育学　Theory and Practice in Teaching Fine Arts 美術科内容学　Fundamentals in Teaching Fine Arts	
家政教育専攻 Home Economics Education	家庭科教育学　Theory and Practice in Teaching Home Economics 家庭科内容学　Fundamentals in Teaching Home Economics		
技術教育専攻 Technology Education	技術科教育学　Theory and Practice in Technology Education 技術科内容学　Fundamentals in Technology Education		

※発達教育学専攻，養護教育専攻，学校教育臨床専攻，音楽科教育学領域，音楽科内容学領域（声楽），保健体育専攻は，第３次募集を行いません。

There will be no third intake for “Sciences of Human Development and Education”, “School He alth Sciences”, “Clinical, Psychological and Practical Studies in School Education”, “Theory and Practice in Teaching Music (Art Education)”, “Fundamentals in Teaching Music (Vocal)”, and “ Health and Physical Education”.

志願者は，志望するいずれか一つの領域に限り出願することができます。
なお，40ページ(3) その他のとおり出願書類提出後は記入事項の変更は認められませんので,志望する専攻・分野・領域については，「教育学研究科案内」53ページ以降を参照して，慎重に検討のうえ出願してください。
Applicants may apply for one area of specialisation only.
As stated under (3) on p.40, no change is permitted after submission of the application. Applicants are advised to refer to p.53 of the prospectus to check courses offered in each areaand to make a careful selection of area of specialisation.

２ 出 願 資 格　Qualifications

外国籍を有し，次の各号のいずれかに該当する者，ただし，特別支援教育科学専攻，国語教育専攻，社会科教育専攻においては，**国際交流基金と日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験Ｎ２レベル（旧試験の場合は２級）以上に合格していること**
Applicants must have foreign citizenship and meet one of the following qualifications. However, toqualify for Special Support Education; Japanese Education; Social Studies, **applicants are also required to have passed level N2 or higher of the Japanese Language Proficiency Test (level 2 or higher under the previous system), which is offered by the Japan Foundation and Japan Educational Exchanges and Services.**

(1) 外国において,学校教育における16年の課程を修了した者,及び平成30年３月までに修了見込みの者
Those who have completed, or expect to graduate from 16 years of formal school education outside Japan by March 2018.

(2) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者，及び平成30年３月までに修了見込みの者
Those who have completed, or expect to graduate from, while residing in Japan, 16 year formal distance education provided by a university outside Japan by March 2018.

(3) 外国において学校教育における15年の課程を修了し，本学大学院において，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
Those who have completed 15 years of formal school education outside Japan and have their academic records approved by the Graduate School of Aichi University of Education.

(4) その他本学大学院において，(1)と同等以上の学力があると認めた者
Others who are recognized to be of equivalent standing as those specified in (1) by the Graduate School of Aichi University of Education.

〔注１〕出願資格(3)により出願する場合は,出願資格の事前審査を行います。48ページの詳細を参照してください。
Note 1: Applicants falling under category (3) must undergo a preliminary eligibility screening, which is described on p. 48.

〔注２〕出願資格(4)において同等以上の学力があると認めた者とは次の者をいいます。
大学教育修了までの学校教育の課程が16年に満たない国において大学教育を修了した者で，大学教育修了後，日本国内又は国外の大学若しくは国立大学利用機関等これに準ずる研究機関において，研究生，研究員等として相当期間（おおむね１年以上とする）研究に従事しており，平成30年３月31日までに22歳に達する者
Note 2: Qualification (4) is applicable to graduates of a university in a country whose formal education up to university is completed in less than 16 years. They must have conducted research as a research student or a research fellow in a university or equivalent in or outside Japan for approximately one year, and be at last 22 years old by March 2018.

〔注３〕日本の大学において学士の学位を取得した者及び平成30年３月までに取得見込みの者は，外国人学生特別選抜試験への出願はできませんので，一般選抜試験に出願してください。
Note 3: Those who graduated (or graduates in March , 2018) from university in Japan are not eligible to apply. They are required to apply for a general examination.

３　出　願　期　間　Period of application

平成３０年２月１９日（月）から２月２３日（金）まで

出願書類の提出は郵送に限る。２月２３日（金）19時までに入試課に必着のこと

ただし，２月２１日（水）以前の郵便局受付印（消印）のある「書留速達」に限り，期限後に到着したものでも受理する。

Monday, February 19 through Friday, February 23, 2018.

Applications submitted by postal mail must be delivered to the office by no later than 7 p.m . on Thursday, February 23, 2018.

However, applications that arrive past that deadline will be accepted if they are sent by "registered express mail" and are postmarked on or prior to Wednesday, February 19 , 2018 .

４　出　願　手　続　Application procedure

志願者は，次の出願書類を一括して提出してください（封筒の表に「大学院出願書類在中」と朱書し，必ず**書留郵便**で送付してください）

Applicants are required to submit all of the following documents in one package. (Packages, if submitted by postal mail, must be marked as "application materials for the Graduate School" in red ink on the front of the envelope and be sent by **registered mail**.)

(1) 出 願 書 類

Documents to be submitted in the package include:

※本学指定の様式は本学Webサイトに掲載しているものをプリントアウトし作成してください。

Note: Please use the form prescribed by Aichi University of Education, by printing off the forms provided on the universitywebsite.

① 入学志願票・受験票

: 本学所定の様式（氏名は，在留カードに記載されるものを記入してください）

Application form and examination voucher: Use the specified forms, which can be obtained from Aichi University of Education. (Applicant's name should be written the same as shown on his/her alien registration card.)

② 大学の卒業証明書又は卒業見込証明書 ※コピー不可

: 原本を提出できない者にあっては，公的証明機関〔例：中国の場合は公証所〕が，証明した「写」を提出してください。なお, 公的証明機関の証明がない場合は出願を認めません）

A certificate of graduation (or expectation of graduation) from a university, or its copy which is certified by a notary public.
Certificates without an official seal are not accepted.

③ 大学の成績証明書（又はこれに代わるもの） ※コピー不可

: 出身大学長が作成したもの。なお，原本を提出できない者にあっては，公的証明機関〔例：中国の場合は公証所〕が，証明した「写」を提出してください。また，公的証明機関の証明がない場合は出願を認めません。

Academic transcripts (or equivalents) issued by the president of the university , from which the applicant graduated or its copy which is certified by notary public.
Transcripts without an official seal are not accepted.

④ 日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書（原本）

Japanese-Language Proficiency Test Certificate of Result and Scores (original)

（特別支援教育科学専攻，国語教育専攻，社会科教育専攻のみ）
(Special Support Education , Japanese Education , Social Studies only)

: 独立行政法人国際交流基金と財団法人日本国際教育支援協会が共催で実施している日本語能力

試験を受験した者に発行される公的な証明書
N２レベル（旧試験の場合は２級）以上の取得を必須とする。
An official certificate issued by the Japan Foundation and Japan Educational Exchanges and Services (formerly the Association of International Education, Japan).
Applicants are required to pass the Japanese Language Proficiency Test N2 (level 2 under the previous system) or higher.

手元に原本がない場合は，下記のＵＲＬから申請し，入手してください。
申請から発行まで時間がかかるため，申請は早めに行ってください。
http://jlpt.jp/certificate/index.html
If you do not have a certificate on hand, please apply through the URL below, and obtain one. The processing from application to issuance takes time, so please apply well in advance.

⑤　入学検定料受付証明書貼付票・写真票
：本学所定の様式に必要事項を記載し，切り離さずに提出すること。
平成３０年２月９日(金)から２月２３日(金)までの間に本要項に同封の**「入学検定料払込書」**の「ご依頼人欄」に，志願者本人の氏名(３ヶ所)・住所等(２ヶ所)を記入し，最寄のゆうちょ銀行又は郵便局の窓口に現金を添えて払い込み，検定料(30,000円）を払い込んだことを証明する**「入学検定料受付証明書」**（振替払込受付証明書：日付印があるもの）を**「入学検定料受付証明書貼付票」**の所定の欄に貼り付けて，出願書類と一緒に提出してください。（払込手数料は本人負担）ただし，国費外国人留学生及び諸外国の大学との間で締結された大学間交流協定に基づき授業料等が不徴収とされている場合の留学生は，不要です。

Proof of Payment of Entrance Examination Fee Slip and Photo ID Voucher
The applicant must fill in the required blanks on the specified form and submit it whole (that is, without separating the different parts of the form). The applicant name is required in three specific blanks and an address in two specific blanks. Use the Telegraph Transfer Form (haraikomi-sho) provided in this Application Guide to pay the required* Entrance Examination Fee (30,000 yen) at a post office or Japan Post Bank branch. The payment must be made between Friday, February 9 and Friday, February 23, 2018. The slip from the Telegraphic Transfer Form (stamped with the date of payment) must also be pasted onto the provided Proof of Payment of Entrance Examination Fee and submitted with the other required documents.
*The Entrance Examination Fee is not required for grantees of Japanese government scholarships or students who will attend the university as part of an exchange agreement with an overseas university under which tuition fees are waived.

なお，東日本大震災（平成２３年３月）及び熊本地震（平成２８年４月）関連で被災又は避難されている学資負担者又は志願者は，入学検定料が免除になることがありますので，入学検定料を支払う前の，出願開始日１週間前までに本学Webサイト「入学検定料の免除について」（http://www.aichi-edu.ac.jp/exam/info/kentei_menjyo.html）を確認の上，申請してください。
Please note that applicants or persons paying fees on an applicant's behalf who were directly affected by, or evacuated as a result of the Great East Japan Earthquake of March 2011 or Kumamoto Earthquake of April 2016 may be entitled to an exemption from the Entrance Examination Fee; such persons should examine the information presented on the "About Exemption from Entrance Examination Fees" (http://www.aichi-edu.ac.jp/exam/info/kentei_menjyo.html) (Japanese language only) section of the University's website and submit an application for exemption at least one (1) week prior to the date of commencement of the period for submission of applications, before paying the Entrance Examination Fee

払い込まれた検定料は，次の場合を除き，返還しません。
(ｱ) 出願書類を提出しなかった場合　　（返還額：振込手数料を差引いた額）
(ｲ) 検定料を誤って二重に払い込んだ場合　（返還額：振込手数料を差引いた額）

（ｳ）出願書類が受理されなかった場合　　（返還額：振込手数料を差引いた額）

The Entrance Examination Fee is not to be refunded , except for the following case only.

A. The applicant has failed to submit his or her application form by the prescribed date.
B. The applicant has paid the Entrance Examination Fee twice.
C. The application form has been rejected by University.

＊検定料の返還請求方法

・上記（ｱ）又は（ｲ）の場合

本学**財務課出納係　TEL 0566-26-2147**へ申し出てください。

・上記（ｳ）の場合

本学よりその旨を連絡します。

※How to Get the Entrance Examination Fee Refunded:

To get the Entrance Examination Fee refunded, the applicant is required to write a letter to the University giving the reason(s) for claiming a refund; this letter must include the applicant's name, its *furigana* (pronunciation), and the applicant's address and telephone number. The applicant must attach the Proof of Payment of Entrance Examination Fee to the letter and send it to the following address:

The Cashier, the Accounting Section, Department of Financial Affairs, Aichi University of Education (Tel 0566-26-2147)
1, Hirosawa, Igaya-cho, Kariya, Aichi Prefecture, 448-8542, Japan

The applicant will then be sent a Form for Claiming a Refund, and will be asked to fill in the form, attach his or her signature, and send the form back to the address noted above.

⑥　論　文〔本学所定の様式を使用し**日本語**で記載し提出してください。なお，英語教育専攻志願者については英語で記載できます。また，理科教育専攻は様式が異なるのでご注意ください。
パソコン等でも記入可とします。〕

Summary of your academic research (written in Japanese in the specified form or in English if you are applying for English Education. Use of PC is allowed.)
Note that the forms required are different for the following majors:
Science Education.

特別支援教育科学専攻　Special Support Education
：大学の卒業論文の概要又は主な研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を提出してください。
Outline of your graduation thesis or a major research, and your postgraduate research plan
（様式⑤－Ａ）（form⑤－Ａ）

国語教育専攻　Japanese Education
：大学の卒業論文の写又は主な研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を提出してください。
Copy of your graduation thesis or a major research, and your postgraduate research plan
（様式⑤－Ａ）（form⑤－Ａ）

英語教育専攻　English Education
：大学の卒業論文の写又は主な研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を提出してください。
Copy of your graduation thesis or a major research, and your postgraduate research plan
（様式⑤－Ａ）（form⑤－Ａ）

社会科教育専攻　Social Studies
：大学の卒業論文の写又は主な研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を提出してください。
Copy of your graduation thesis or a major research, and your postgraduate research plan
（様式⑤－Ａ）（form⑤－Ａ）

数学教育専攻　Mathematics Education
：大学の卒業論文の概要又は主な研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を提出してください。
Outline of your graduation thesis or a major research, and your postgraduate research plan
（様式⑤－Ａ）（form⑤－Ａ）

理科教育専攻　Science Education

：卒業研究又はその後の研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を簡単に書いてください。

Brief outline of your graduation research or a more recent research, and your postgraduate research plan

（様式⑤－Ｄ）（form⑤－Ｄ）

芸術教育専攻（音楽分野）　Art Education Music

：大学の卒業論文の概要又は主な研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を提出してください。

Outline of your graduation thesis or a major research, and your post graduate research plan

（様式⑤－Ａ）（form⑤－Ａ）

芸術教育専攻（美術分野）　Art Education Fine Arts

：大学の卒業論文の概要又は主な研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を提出してください。

Outline of your graduation thesis or a major research, and your　postgraduate research plan

（様式⑤－Ａ）（form⑤－Ａ）

家政教育専攻　Home Economics Education

：大学の卒業論文の概要又は主な研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を提出してください。

Outline of your graduation thesis or a major research, and your postgraduate research plan

（様式⑤－Ａ）（form⑤－Ａ）

技術教育専攻　Technology Education

：卒業研究又はその後の研究の概要，及び入学後の研究計画の概要を簡単に書いてください。

Brief outline of your graduation research or a more recent research,and your postgraduate research　plan

（様式⑤－Ａ）（form⑤－Ａ）

⑦　作　品

芸術教育専攻の美術分野志望者は，ポートフォリオ（これまで制作した作品の写真等を整理したファイル）及び過去１年以内に制作した実物作品を，口述試験の際に提出してください。

ただし，美術科教育学及び美術科内容学の理論系を選択する者は作品及びポートフォリオの持参を要しません。なお，実物作品については，以下の規定に従うものとします。

Art work：Applicants for the Fine Arts Field of Art Education must submit a portfolio an art work of the selected practical skills created within one year before the application at the oral examination.

However, applicants for Art Education or Art Theory Studies do not need to bring sample works of art or portfolios. Original works of art should be in accordance with the stipulations below. The submission rule of　the art work:

・絵　　画……100号以内の作品１点

Painting：Applicants must submit one painting whose size is within size 100.

・彫　　刻……縦，横，奥行きの合計が６ｍ以内の作品１点

Sculpture：Applicants must submit one sculpture the sum of whose height, width and depth does not exceed　6 m.

・デザイン……デザインに関する作品１点

Design：Applicants must submit one artwork(design).

・工　　芸……工芸に関する作品１点

Craft：Applicants must submit one artwork(craft).

⑧　国費外国人留学生証明書

現在国費留学生である者は，在学している大学発行の証明書を提出してください。
Certificate of Japanese government scholarship: Grantees of Japanese government scholarship must submit a certificate issued by the university in which they are currently enrolled.

⑨ 受験票返送用封筒１枚　One examination voucher return envelope
：長形３号の封筒を用意し，郵便番号・住所・氏名を明記し，362円分の切手を貼ってください。
なお，国内発送に限ります。
One examination voucher return envelope:
Please use a rectangular No. 3 size envelope (12cm by 23.5cm); write your name, address and postal code on the envelope, and affix a 362-yen stamp to the envelope. Limited to domestic shipping.

⑩ 宛名票　Seal envelopes
：本学所定の様式に，受験案内及び合格通知書等の受け取り先の郵便番号・住所・氏名を明記してください。
Self-addressed Labels:
Self-addressed labels must be in the format specified by the University, and must clearly state the name, address and postal code for the recipient of the Examination Guide or Examination Results Notification Form, etc.

(2) 出 願 先　Mailing address
〒448-8542　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１　愛知教育大学 入試課
：Registrar and Admissions Office, Aichi University of Education,
1 Hirosawa, Igaya-cho, Kariya, Aichi 448-8542, Japan

(3) そ の 他　Others

出願書類提出後は記入事項の変更を認めません。

又，いったん受理した出願書類は返還しません。

After submission, no change of application documents is accepted.

The documents once received, will not be returned.

5 受験票の交付　Delivery of the examination voucher for the examination

受験票は，受験案内を同封して平成３０年３月１日（木）頃に発送します。

The examination voucher for the examination will be sent on around Thursday, March 1, 2018.

6 選 抜 方 法　Selection Procedure

入学者の選抜は，本学が行う学力検査，出身大学の長から提出される成績証明書（又はこれに代わるもの）等を総合して行います。

Selection will be made based on the results of an entrance examination and the academic transcript issured by the president of the university from which the applicant graduated (or its equivalent).

(1) 学力検査は，次の A 及び B の試験によって行います。

(1) The Scholastic Ability Examination comprises the following Test A and Test B.

A　専攻に関する科目の試験

Examination in a selected subject of study

志望の領域（教育学研究科案内参照）に関する内容についての学力試験

Written examination in the selected specialty or area of specialisation (Refer to the table of specialties and area specialisation.)

（注．①指定した設問（全領域が対象）については，英文の解答を認めます。

(Note: ①There are some questions in any area of specialisation that may require answers in English.

なお，芸術教育専攻，家政教育専攻（家庭科内容学領域）及び技術教育専攻（技術科内容学領域）は次によります。

Examination procedures for applicants for Clinical, Psychological and Practical Studies in School Education, for Art Education, for Fundamentals in Teaching Home Economics (in Home Economics Education) and for Fundamentals in Technology Education (in Technology Education) are as follows:

○芸術教育専攻（音楽分野）

Art Education (Music)

志望の領域 Area Specialisation		専攻に関する科目 Examination in a selected subject of study
音楽分野	音楽科内容学 Fundamentals in Teaching Music	◎小論文　Essay test （ compulsory ） ◎実技科目 Practical skill test ［○ピアノ　Piano　○作　曲　Composition］ 1科目選択 elective

(注) 表中◎印は必修科目，○印は出願時に選択し受験する選択科目を示します。

Note: Electives must be nominated at the time of application.

・音楽科内容学……日本語による小論文を課す。音楽科内容学の実技科目については，入学後の主たる専攻分野に関わる科目を選択すること。

Fundamentals in Teaching Music: You must choose one of the following sets of test in accordance with your principal area of graduate study.

ピアノ……1)バッハ平均律クラヴィア曲集第Ⅰ巻，第Ⅱ巻よりプレリュードとフーガ
2)任意のピアノ曲（10分程度のもの）
1)，2)より１曲ずつ，計２曲演奏すること。

If you choose piano music, play two pieces (one of each from 1) and 2)).

・1) a piece from J.S. Bach' s *The Well-Tempered Clavier* (*Prelude and Fugue*)
・2) a piano piece of your choice which lasts around 10 minutes.

作　曲‥‥1)，2)合わせて１２０分の試験を課す
1)与えられたバス及びソプラノ声部により，それぞれ四声体の和声を作ること。
（各８～１０小節。近親転調は含まない。）
2)当日与えられる動機により，三部形式程度のピアノ曲を作曲すること。
五線紙は所定のものを用意するが，楽器を用いての作曲は不可。

The composition test consists of two parts to be completed within 120 minutes.

・1)Composition of a four-part harmony vocal piece utilizing both bass and soprano vocals. (Of 8-10 bars in length, the finished piece must not include modulation to the related key)
・2)Composition of a three-part form piano piece. (Written on a 5-line staff/stave, the composition is to be written without the use of an instrument)

※　伴奏を必要とする者は，試験日に伴奏者を同伴してください。ただし，希望により伴奏者を大学側に一任することができます。その場合，願書にその旨を記入し，願書出願時に伴奏譜を提出してください。

＊ If necessary, you may either bring your accompanist to the examination or ask the university to provide an accompanist for you. In the latter case, the request must be made on the application form and the score with accompaniment must be enclosed.

○芸術教育専攻（美術分野）
Art Education (Fine Arts)

志望の領域 Area Specialisation		専攻に関する科目 Examination in a selected subject of study
美術分野	美術科教育学 Theory and practice in Teaching Fine Arts 美術科内容学 Fundamentals in Teaching Fine Arts	◎実技科目 practical skill test［○平面造形 painting　○立体図形 sculpture］1科目選択 elective

（注）表中◎印は必修科目，○印は出願時に選択し受験する選択科目を示します。
Note: Electives must be nominated at the time of application.

○家政教育専攻
Instructions for applicants for Fundamentals in Teaching Home Economics (in Home Economics Education):
家庭科内容学領域を志望する者は，志願票の選択科目欄に下記の出題分野から志望する出題分野を選択し，記入してください。
食　物　学……食品学，栄養学及び調理学より出題
被　服　学……被服学より出題
家庭経営学……家庭経営学，家庭経済学及び家庭関係学より出題
Choose one from the following areas and designate it on the application form: food studies (food, dietetics and cooking); clothing studies; family and consumer resource management (including family and consumer economics and family studies)

○技術教育専攻
技術科内容学領域を志望する者は，志願票の選択科目欄に下記の出題分野から志望する出題分野を選択し，記入してください。
・電　気　・機　械　・栽　培　・情　報

Instructions for applicants for Fundamentals in Technology Education (in Technology Education): Choose one from the following areas and designate it on the application form: electrical engineering; mechanical engineering; plant cultivation; information

B　日本語による口述試験　Oral examination in Japanese

主として志望の領域の研究に関する内容とし，併せて，日本語能力を審査し，総合的に判断します。

The interview will focus mainly on the area of study chosen by the applicant, and Japanese language proficiency will be also evaluated. A comprehensive judgment will be made.

なお，下記専攻分野については下記の通り行います。

The examination procedures for applicants for the following fields of study are as listed below:

芸術教育専攻 美術分野	口述試験の中で，受験時点までに行ってきた研究や制作の内容と，合格後に大学院生として取り組もうとする研究や制作について，一人10分程度のプレゼンテーションをして頂きます。その際，プレゼンテーションに関わるデータの入ったパソコンや資料など必要なものを各自で持参してください。資料を持参する方は，同じものを５部用意してください。

Art Education (subject) Art (field)	The oral examination will include a presentation, roughly ten minutes per applicant, on the applicant's research or creations up to the time of the examination, as well as research or creations the applicant intends to pursue as a graduate student after passing the examination. The applicant should bring a computer with data related to the presentation and/or other materials as needed. Applicants with presentation materials should bring five copies of each.

(2) 学力検査期日

平成３０年３月１１日（日）

Examination Date: Sunday, March 11 , 2018.

(3) 学力検査場

愛知教育大学（詳細は受験案内で通知します）

Examination Site: Aichi University of Education

(Details will be notified in the Examination Guide.)

(4) 試験時間割　Examination schedule

期日 date	志 望 の 専 攻 Specialty	専攻に関する科目の試験 Examination in a selected subject of study	日本語による口述試験 Oral examination in Japanese 実技試験 *1 Pratical Skill Test *1
3 月 １１ 日 (日)	全ての専攻・領域	13 ： 00 ～ 15 ： 00	16 ： 00 ～　*2

*1 詳細は受験案内にて通知します。
Details are notified in the examination guide.
*2 志願者数等の状況によっては，日本語による口述試験の日時を変更することがあります。
The oral examination time and date may change depending on the number of applicants.
*3 災害等により学力検査の日時を変更する場合は，本学Ｗｅｂサイトにて詳細を公表します。
Should the date or time for the Learning Ability Test change due to a disaster, etc., details will be posted on the university website.

(5)配点　Mark allocation

科目名　Course name	配点　Mark allocation
専攻に関する科目の試験 Examination in a selected subject of study	３００
日本語による口述試験 Oral examination in Japanese	２００*
総点　Overall score	５００

*口述試験の配点には，調査書・論文・作品等を含みます。
Mark allocation for the oral exam includes puestionnaires, essays, and artwork.

7 合 格 者 発 表 Announcements of Succesful Applicants

日　　時　　平成３０年３月２３日（金）　１０時
Date/Time ： Friday, March 23, 2018　10 a.m.

発表方法　　合格者の受験番号を愛知教育大学Webサイトに掲載します。
http://www. aichi-edu. ac. jp/exam/entrance/grad. html
Means ： The list of successful applicants' numbers will be announced on the webpage of Aichi University of Education.
http://www. aichi-edu. ac. jp/exam/entrance/grad. html

「合格通知書」及び「入学手続関係書類」は，下記の交付場所にて直接交付します。
「合格通知書」及び「入学手続関係書類」は，郵送はされません。
"Passing Notification Form" and "Admission Procedure Related Documents" at the following delivery place I will give it directly."Notice of acceptance" and "Documents related to enrollment procedures" will not be mailed.

注．電話その他による合否の照会には一切応じません。
Note: Inquiries by telephone or other means will not be accepted.

交付時間・交付場所

日　　時	場　　所
平成３０年３月２３日（金）　１０：００～１７：００ 10:00~17:00,Friday , March 23, 2018	愛 知 教 育 大 学 入試課（本部棟１階） Aichi University of Education Registrar and Admissions Office (Head Office Building 1st)
平成３０年３月２４日（土）　９：００～１６：００ 9:00~16:00,Saturday , March 24, 2018	
平成３０年３月２５日（日）　９：００～１５：００ 9:00~15:00, Sunday , March 25, 2018	
平成３０年３月２６日（月）　９：００～１５：００ 9:00~15:00,Monday , March 26, 2018	

8 入 学 手 続 Entrance Procedures

入学手続は下記の日時・場所で行います。入学手続の詳細は合格通知書の交付時にお渡しします「入学手続要項」をご覧ください。

Admission procedures will be conducted at the following dates / times / places. Details of the entrance procedure will be handed out at the time of issuance of the acceptance letter Please refer to "Admission Procedure Requirements".

(1) 入学手続期間
Entrance procedure period

日　　時　　Date and Time	場　　所　　Place
平成３０年３月２５日（日）　９：００～１６：００ （ただし，１２：００～１３：００を除く） 9:00~12:00･13:00~16:00, Sunday , March 25, 2018	愛 知 教 育 大 学 Aichi University of Education
平成３０年３月２６日（月）　９：００～１６：００ （ただし，１２：００～１３：００を除く） 9:00~12:00･13:00~16:00,Monday , March 26, 2018	
平成３０年３月２７日（火）　９：００～１２：００ 9:00~12:00,Tuesday , March 27, 2018	

上記期間内に手続きをしなかった場合は，入学する意思がないものとして取り扱います。

※ Please note that if the admission procedures are not completed in the period specified above, the applicant will be deemed to have waived the opportunity for admission.

○入学手続時に持参するもの Things to bring during the entrance procedure

①入学手続関係書類　*1
②入学料等納入金　*2
④保証人（保護者等）の印鑑（保証書用）
⑤写真（4cm×3cm）１枚（学生カード用）
⑥入学資格を証明する書類（卒業見込で受験した者のみ，卒業証明書等）

① Documents related to enrollment procedures * 1
② Admission fee payment etc. * 2
④ seal of the guarantor (guardian etc) (for guarantee)
⑤ Photo (4 cm × 3 cm) 1 sheet (for student card)
⑥ Documents certifying entrance eligibility (only those who took the examination due to graduation, graduation certificate etc)

入学手続に関するお問い合せ先
Inquiries concerning enrollment procedures
（全 般）
学生･国際課　TEL 0566-26-2176
（入学料等納入金関係）
財務課　TEL 0566-26-2147
（入学料･授業料免除関係）
学生･国際課　TEL 0566-26-2184

(General)
Student Support Division
TEL 0566-26-2176
(Relationship between payment of admission fee etc.)
The Cashier, the Accounting Section
TEL 0566-26-2147
(Admission fee / tuition fee exemption relation)
Student Support Division
TEL 0566-26-2184

*1　合格通知書を交付する際にお渡しします。
*2　入学手続時までにゆうちょ銀行又は郵便局にて払込をされた方は必要ありません。

※合格発表から入学手続までの期間が短いので，写真等入学手続に必要な書類の準備に留意してください。

* 1 We will hand it over to you when we give you a letter of acceptance.
* 2 Those who have been paid in at Yucho Bank or post office by the time of enrollment procedure are not necessary.
※ Since the period from acceptance announcement to enrollment procedure is short, please keep in mind the preparations for the necessary documents for photography etc admission procedure.

※　入学手続期間までに在留資格が消滅する者は，入試課にお問い合わせください。
Note: In case your visa expires before the entrance procedures begin, call Registrar and Admissions Office at 0566-26-2203 or 2202.

(2) 納入金（入学料・入学時諸費用・授業料） Payment
納入金については，合格者宛てに送付する「入学手続要項」にて案内します。
ゆうちょ銀行又は郵便局の窓口で納入してください。
なお，国費外国人留学生を除きます。
You must pay the fee at a post office or Japan Post Bank using the Telegraphic Transfer Form provided. (Grantees of Japanese government scholarship are exempted.)

入　学　料 Entrance　Fee	２８２，０００円
入学時諸費用 Insurance　premium	３２，４３０円

（参考）　授　業　料 前期分 First semester　２６７，９００円

なお，入学時及び在学中に納入金の改定が行われた場合には，改定時から新入学料，新入学時諸費用及び新授業料を適用します。
IF fees are revised prior to and after enrollment, the revised amount will be applied from the time of the revision.

（注）１．入学料及び入学時諸費用は，入学手続時までに必ず納入してください。
Note 1: The admission fees and required insurance premiums must be paid before the admission procedures can be completed.

（注）２．入学時諸費用は，通学中や実習などの活動中の事故等に係る保険料，教育研究活動，大学行事，就職，課外活動及び福祉厚生への支援など様々な学生支援事業のための費用で，入学時のみの費用です。
Note 2: The admission fees include insurance for accidents during such activities as commuting to school and practical training, as well as fees for a variety of student support programs, such as support for educational research activities, university events, employment, extracurricular activities, and welfare. These fees apply only at the time of admission.

（注）３．授業料の納入については，入学手続要項において納入方法を指示します。
Note 3: Instructions regarding the payment of tuition fees will be given in the Admission Procedure Guidelines.

（注）４．入学手続終了者が，その後入学を辞退しても，納入済の入学料は返還しません。
Note 4: Paid admission fees will not be returned to applicants who complete the admissions procedure and then decline admission.

※　試験に関する問い合わせ

＊ Contact address for other inquiries concerning the entrance examination

問い合わせ先　〒448-8542　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１
愛 知 教 育 大 学　入 試 課
Registrar and Admissions Office, Aichi University of Education,
1 Hirosawa, Igaya-cho, Kariya, Aichi 448-8542, Japan
電話　０５６６－２６－２２０３・２２０２　TEL: 0566-26-2203 or 2202

３４ページ「２ 出願資格(3)による出願資格」の事前審査について

Preliminary Eligibility Screening for Applicants falling under category (3) (p.34)

本出願資格による志願者は，下記１の要件を満たす見込みについての事前審査を行いますので，下記２の審査書類を平成３０年２月２日（金）までに入試課へ郵送してください。

Applicants for this qualification are requested to send the screening documents listed under number 2 below by post to the Registrar and Admissions Office by Friday, February 2, 2018, so that preliminary eligibility screening with regard to requirement 1 below can be carried out

記

1　平成30年３月までに「外国において学校教育における15年の課程を修了し，本学大学院において，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者」とは，次の条件を満たす者とします。

Those who have completed 15 years of formal school education outside Japan by March 2018, must meet the following conditions, in order to have their academic records approved by the graduate school of Aichi University of Education.

(1) 教育制度が16年の課程を有している外国において学校教育の15年の課程を修了した時点で，次の条件をすべて満たす見込みであること。

Those who have completed 15 years of school education in a foreign country which has a 16 years of school education system must meet all of the following conditions:

① 在学期間について
Length of attendance
休学期間を除き，外国において学校教育の15年の課程以上の在学期間を有していること。
Total length of attendance must be 15 years or more, without counting the period of absence from school.

② 修得単位数について
Credits earned
上記に定める期間において，修得する必要のあるすべての科目を含め，卒業（修了）要件単位数の80%以上を修得していること。
Applicants must have earned more than 80% of credits required for graduation, including those of compulsory subjects.

③ 学業成績について
Academic records
上記に定める修得単位数において，修得単位数の90%以上が最上位（点数評価の場合は85点以上）を得ること。
More than 90% of the credits earned must be in the top rank (or be marked higher than 85 out of 100).

(2) 教育制度が15年の課程を有している外国における学校教育の課程修了者については，修得単位数の90%以上が最上位（点数評価の場合は85点以上）を得ること。

Those who have completed 15 years of school education in a foreign country which has a 15 years of school education system are required to have more than 90% of their credits be in the top rank (or be marked higher than 85 out of 100).

2　事前審査提出書類
提出書類の詳細については，入試課にお問い合わせください。
For details of necessary documents, ask at the Registrar and Admissions Office.

3　その他 Others

(1) 事前審査の結果については，平成３０年２月１４日（水）頃までに本人あてに通知します。
なお，出願資格を認められた者が受験を希望する場合は，35ページ **４出願手続** (1)出願書類による書類を出願期間内に提出してください。

The result of the preliminary eligibility screening will be mailed to each applicant by Wednesday, February 14, 2018.
Those whose academic records are approved , if they choose to apply, are required to submit the application materials within the period of application printed on p. 37.

(2) 本出願資格により入学試験を受験し，合格と判定された者が，平成30年３月までに，前記１の要件を満たさない場合は，入学を許可しません。

If the applicants fail to meet all the conditions stated above by March 2018, their candidacy will be cancelled even after they pass the preliminary eligibility screening and the entrance examination.

(3) 本出願資格により入学する者は，在籍している大学の学部を退学することとなります。
したがって，教員免許状（専修免許状）の取得が困難になる場合があること及び国家試験等の受験資格で，大学を卒業することが条件となっているものについては，受験資格を失うことになるので注意してください。

Those who have completed 15 years of school education in a foreign country which has a 16 years of school education system, are advised to check, before filing their application, possible disadvantages of withdrawal from their undergraduate program. For instance, they may not be able to obtain a teacher's license or be disqualified for national examinations which require an undergraduate degree.

平 成 ３ ０ 年 度

小 学 校 教 員 免 許 取 得 コ ー ス 案 内

愛 知 教 育 大 学 大 学 院

小学校教員免許取得コースの概要と受講のご案内

小学校教員免許の取得は，教員養成大学・学部以外では，かなり困難な状況にあります。愛知教育大学では平成１７年度から，小学校教員免許を持たない大学卒業者が大学院で長期在学制度を活用して小学校教員免許取得に必要な科目を履修できるよう，新たなコースを開設しました。

本コースでは，通常の大学院修士課程の履修と共に，小学校教員免許の取得に必要な学部の科目を履修することができます。大学院修士課程の教育研究と同時に小学校教員免許を取得するためには，通常の修士課程よりも長い修業年限が必要となるので，このコースの学生には長期在学制度を適用して修業年限を３年とします。そして，このコースの大学院を修了することにより修士の学位と共に，小学校教諭専修免許を取得する資格が得られます。（ただし，特別支援教育科学専攻，養護教育専攻，英語教育専攻及び技術教育専攻においては，小学校教諭１種免許となります。）

本コースの学生数，申請方法，受講の可否及び大学院における修得単位数等の概要

・本コースの学生数

本コースを受講できる学生の募集人数は，教育学研究科（修士課程）と教育実践研究科（教職大学院）を併せて年間を通して３０名です。

・本コースへの申請資格

本コースに申請することができるのは，本学大学院に出願した者のうち，昼間開講コースを志願した者で，小学校教員免許を取得していない者です。（小学校教員免許取得見込みの者は申請できません。）

・本コースの受講可否の決定方法

本コースの受講可否の決定は，本学大学院修士課程の通常の入学試験とは別に，**教職への意欲等を審査する小論文**により行います。

なお，本コースの受講が不許可になっても，大学院修士課程の各専攻の入学者選抜試験の合格は取り消されません。また，この場合は３年の長期在学ではなく，通常の修士課程の２年の修業年限となります。（小学校教員免許は取得できません。）

・本コースの学生の修業年限

本コースの学生は長期在学制度を適用して**修業年限を３年**とします。

・授業料について

本コースの学生は**通常の授業料相当の額を３年の在学期間（３年間分の授業料）納入する**ことになります。

なお，授業料については２６ページの「８　入学手続　(2) 納入金」もご参照ください。

授業料　　前期・後期　２６７，９００円
年　　額　５３５，８００円

・本コースの授業開設

本コースの学生は，基本的に大学院及び学部の既存の開設科目を履修しますが，新たに本コースの学生だけの特別クラスを設ける科目もあります。また，本コースでは，小学校教員免許取得に必要な教育実習の履修や介護等体験ができます。

・履修モデルの作成と学生の入学後の指導責任体制

本コースでは，大学院の各専攻・領域の学生指導の実態と履修者の個別事情に合わせた履修指導に責任をもって当たります。

入学後に修得すべき単位数

【教員免許をまったく取得していない人の場合】

大学院と学部合わせて９１単位以上を３年間で修得します。
（これに加えて，大学で「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」各２単位を修得していない人は，これらの単位も修得する必要があります。）

	大学院	学　部	計
１年目	４	３９	４３
２年目	１８	２０	３８
３年目	８	２	１０
計	３０	６１	９１

【中学校・高等学校・幼稚園のいずれかの教員免許を取得（取得見込み）している人の場合】

大学院と学部を合わせて，７７単位以上を３年間で取得します。

	大学院	学　部	計
１年目	８	３３	４１
２年目	１８	１４	３２
３年目	４	０	４
計	３０	４７	７７

注）１．上記単位数には取得済単位数の読替単位を控除してあります。
（旧免許法で教員免許を取得した人は新法に読替できない単位があるため，修得単位数が増えます。）

２．教員免許をまったく取得していない人，高等学校又は幼稚園の教員免許のみを取得している人は，社会福祉施設などでの介護等体験が必要です。

３．小学校教諭専修免許を取得するためには，大学院での修了要件単位数（３０単位）のほかに，専攻により，さらに２～４単位を修得する必要があります。
ただし，特別支援教育科学専攻，養護教育専攻，英語教育専攻及び技術教育専攻では，小学校教諭１種免許は取得できますが，小学校教諭専修免許を取得することはできません。

４．本コースで取得した単位は**小学校教員免許状取得に必要な単位のみに限り**証明しますのでご注意下さい。

「小学校教員免許取得コース」受講の申請手続き関係等について

１．募集人員　　年間を通して３０名：教育学研究科と教育実践研究科の合計数

２．申請期間

平成３０年２月１９日（月）～２月２３日（金）

出願書類の提出は郵送に限ります。２月２３日（金）１９時までに必着のこと。

ただし，２月１９日（水）以前の郵便局受付印（消印）がある「書留速達」に限り，期限後に到着したものでも受理する。

３．申請方法

本学大学院教育学研究科（修士課程）の各専攻への出願と同時に同封の「小学校教員免許取得コース受講申請書」に必要事項を記入のうえ，大学院の出願書類と一緒にお送りください。

４．小論文の審査日程・場所

平成３０年３月１１日（日）**９時３０分～１０時３０分**　愛知教育大学

※　詳細については，別途通知します。

５．受講可否の決定方法

大学院の各専攻の入学試験合格者の中から，**小論文審査の結果により，受講の可否を決定します。**

小論文審査の配点　　小論文　……　１００点　（総点　……　１００点）

６．受講可否の発表

日　時　　平成３０年３月２３日（金）　１０時

方　法　　受講許可者の大学院の受験番号を愛知教育大学Webサイトに掲載します。

http://www.aichi-edu.ac.jp/nyushi/daigakuin/index.html

電話その他による受講可否の照会には一切応じません。

７．その他

小学校教員免許取得コースの受講が不許可になっても，大学院の合格は取り消されませんので，大学院の合格者には，合格通知書を送付します。なお，この場合は長期在学（３年）ではなく，標準修業年限（２年）で修了することになります。

その他問い合わせ先

■入学試験に関する問い合わせ先：

〒448-8542　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１　愛知教育大学入試課

電話　０５６６－２６－２２０３

■小学校教員免許取得コースに関する問い合わせ先：

〒448-8542　愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢１　愛知教育大学教務課

電話　０５６６－２６－２１６３

併せて，本学のWebサイト http://www.aichi-edu.ac.jp/ をご覧ください。

平 成 ３ ０ 年 度

教育学研究科（修士課程）案内

愛 知 教 育 大 学 大 学 院

１　研究科の概要及び平成３０年度大学院担当教員（予定）

以下の担当教員一覧表は平成２９年１０月１日現在の教員情報を元にした予定表で，
今後退職・新規採用等の事情により，担当教員の変更がでる場合があります。
また，以下の印のついた者は，授業を担当できない可能性があります。

※印・・・役職者
◎印・・・平成３１年３月退職予定者
○印・・・平成３２年３月退職予定者

発達教育科学専攻　教育学領域

【理念と特色】

教育という営み自体は，学校が制度として確立する以前の昔から人間がずっと行ってきたことだと考えられます。現代では教育というと学校教育のことを想定する場合が一般的ですが，実際には学校以外の場面で行われる教育的活動もたくさんあり，それぞれが人間の発達に重要な役割をはたしています。教育学領域は，そうした多岐にわたる教育的活動を，さまざまな観点から広く追究し，教育の諸実践に活かすことのできる知見を提供することを目標としています。

具体的には，教育哲学・教育方法学・社会教育学・教育制度学・教育法学・教育社会学・キャリア発達研究などの諸学問分野を基礎としながら，現代のさまざまな教育問題について，原理的・理論的・実証的・実践的な研究を進めています。授業は少人数で教員と受講生とのあいだで活発に議論を深めながら行われています。学部から直接進学した若い学生の感性と現職で入学された学生の経験に裏打ちされた意見のぶつかり合いを通して，斬新な発想や自由な思考が生み出されていく過程は，大学院の授業ならではの知的興奮にあふれています。

教員名	専門分野
※大村　惠　教授	社会教育学
野平慎二　教授	教育哲学
山口　匡　教授	教育哲学
田久保清志　准教授	教育方法学
竹川慎哉　准教授	教育方法学
片山悠樹　准教授	教育社会学
趙　卿我　准教授	教育方法学
釜田　史　講師	日本教育史

【最近の修士論文のテーマ】

・中国における大学生のキャリア発達に関する調査研究
・小中学生におけるキャリア発達について
・高校生のキャリア発達に関する調査研究－生活体験，日常生活のスキルとの関連を中心にして
・現代キャリア教育の批判的考察－社会関係資本を手がかりに
・新しいシティズンシップ教育の枠組み －個人間の連帯に着目して－
・地方自治体における学校図書館政策の動向から見た学校図書館専門職の考察 －学校図書館支援センターと民間委託の事例を中心に－
・就職活動におけるボランティア活動に関する研究 －教員採用試験における大学生の学校支援ボランティアに焦点を当てて－
・母親の育児行為の解釈に関する研究 －育児についての語りにおける「虐待認識」に着目して－
・学習意欲と授業の構造に関する研究 －ワークショップ型授業の手法からアプローチ－

【就職状況】

小・中・高等学校の教員のほか，民間企業，公務員等幅広い分野に就職しています。
他大学の大学院博士課程に進学し，さらに研究を続け，大学で教育研究に携わっている人もいます。

発達教育科学専攻　教育心理学領域

【理念と特色】

教育心理学領域では，教授・学習心理学，発達心理学，教育社会心理学，臨床心理学等の心理学の視点から，児童・生徒の姿やつまずきを適切に見立てることができ，教育心理学の知見に基づく児童・生徒の学習活動や心理・社会面の発達のサポートに携わることのできる専門的な人材の育成を目標としています。

大学院での研究活動としては，院生各自が抱いている教育や子どもの支援に関わる教育心理学的な観点をもとに，実験，調査，観察，事例研究などを通して修士論文作成と，教育心理学的な見方やスキルを体験的に学ぶことを目指しています。修士論文作成過程で，得られた成果を学会で発表することもあります。

教員名	専門分野
◎栗　山　和　広　特別教授	教授・学習心理学
弓　削　洋　子　教　　授	教育社会心理学
鈴　木　伸　子　准教授	臨床心理学
石　田　靖　彦　准教授	社会心理学・教育心理学
小　嶋　佳　子　准教授	発達心理学
中　井　大　介　准教授	教育心理学・発達心理学
黒　川　雅　幸　准教授	教育社会心理学
高　橋　靖　子　講　　師	臨床心理学

【最近の修士論文のテーマ】

・中学校入学後の定期テストが学業動機づけに及ぼす影響
・児童に対する教師の評価と同級生の評価との違いが学級連帯性に及ぼす影響
・現代大学生の自己意識と友人との関わり及びアイデンティティ形成
・朗読聴取が児童に及ぼす影響
・教師の指導態度が本来感に及ぼす影響
・中学校部活動における集団目標と個人目標の一致が生徒理解及び顧問のリーダーシップ機能発揮に及ぼす効果
・小学校の通常学級に在籍する発達障害児の保護者と学級担任との信頼関係形成
・仮想接触による外国人への差別的行動の好意的変化

【就職状況】

小・中・高校の教員，心理学の専門的な技量を期待される公務員，他大学博士課程に進学する者など，就職状況に関しては多岐にわたります。また，学校心理士を取得し，教員として活躍している者もいます。

発達教育科学専攻　幼児教育領域

【理念と特色】

人間形成の基礎を培う乳幼児期の発達と教育を研究対象とする幼児教育領域は，幼児教育学，幼児心理学，保育内容学，児童福祉などの専門分野から構成されています。乳幼児を取り巻く社会や文化についての理解や，幼児教育の今日的課題への対処や改革，社会的な要請としての子育て支援や障がい児保育，幼・小の連携なども視野に入れています。乳幼児の発達に関わることに使命と情熱を持ち，創造的に推進する教育・研究の充実に努めています。

幅広い学問的な知識を習得するとともに，理論と実践との有機的連携を図り，幼児教育の創造開発に寄与できる高い専門性を有した保育者や研究者の育成，とりわけ保育者養成に携わる研究者や，幼児に関わる様々な分野で中核的な立場で活躍する人材を育成したいと考えています。また，現職の保育者を積極的に受け入れ，現職としての経験による実践的な課題を省察し，幼児教育の現場に沿った実践的な課題解決能力と指導力が発揮できるような資質を養います。

研究課題の多くは，附属幼稚園や地域の幼稚園・保育所・施設などの実践に密接に関わることを意識して遂行されています。研究対象の特性上，フィールドでの調査や観察，臨床的なアプローチ，統計などの様々な研究方法についても学び，研究者としての基礎を培います。

教員名	専門分野
小川英彦　教授	児童福祉
※新井美保子　教授	幼児教育学
鈴木裕子　教授	保育内容学
樋口一成　教授	造形表現
林　牧子　准教授	発達臨床心理学

【最近の修士論文のテーマ】

・保育の質の向上に関わる実証的研究:子どもの気持ちに沿える言葉かけの意識化を図る
・幼児期のアサーションを育てる保育援助方法:より円滑な人間関係をめざして
・ごっこ遊びのイメージの共有を支える援助:共有要因の発達プロセスをとらえながら
・日常保育における幼児同士の人間関係を育む試み:ソーシャルスキルトレーニング(SST)の技法を用いて
・子どもの経験を表す身体表現　・幼児期の運動遊びと自信の形成　・運動する意欲を育てる保育の探求
・軽度発達障害幼児への個別支援の必要性
・「気になる子」の行政的支援に関する一考察:サポートブックを手がかりとして
・子育て支援における環境構成のあり方　・発達障碍児と家族への支援システムに関する日米比較
・保育士の障がい児保育に対するコミットメントを促す要因の質的研究
・5歳児の人間関係の変容過程:「協同する」ことに向かって
・外国にルーツをもつ幼児の日本語獲得の現状と課題
・安全管理・危機管理に関する保育者の専門性

【就職状況】

保育現場の経験を経て本大学院に学んだ者の多くが，経験の豊富さや，在学中の研究成果が評価され，愛知県を中心に幼稚園教諭や保育士の養成校（大学・短大・専門学校）の専任教員となっています。（平成28年3月までに修了した院生52名のうち32名）。その他，養成校での非常勤講師を務めながら研究を継続している者，または，再び保育の現場に戻り，幼稚園，保育所，自治体の要職に就いて活躍している者もいます。

学部直進者の多くは，修了後，公立保育士，幼稚園教諭の職に就き，保育実践をもとにした保育の研究に携わっています。

発達教育科学専攻（生活科教育領域）

【理念と特色】

平成14年度より大学院教育学研究科（修士課程）学校教育専攻に，我が国唯一の生活科教育分野を設置しました。その後，平成20年の教育学研究科の改組により，発達教育科学専攻（生活科教育領域）となりましたが，平成14年の設置当初より，一貫して下記のような理念と特色のもとで，学部からの直進生，他大学からの進学生，現職教員，留学生等を受け入れて来ました。

今日の学校教育と学校改革において「生活科」及び「総合的な学習」の理論と実践は必要不可欠です。なぜなら，これらは子どもたちの「生きる力」を培う創造的な教育活動であり，教師の自己変革や授業改革，学級・学校づくり，教育の本質追究等にもつながる重要な教科や時間だからです。本領域は，これらの実践に必要な，感性や情性，知性などが豊かで，高度な構想力や指導力，分析力などを発揮できる力量豊かな教師の養成を目指しています。「生活科」や「総合的な学習」の実践では，子どもの興味・関心や身近な生活課題，教科横断的な課題などにもとづく体験的な学習，調査活動的な学習，問題解決的な学習などを重視します。子どもたちが自ら自分の願いや目当て，課題などを見つけ，自ら学び，考え，主体的に判断し，これらをよりよく成就・解決したり，問題の解決や探究活動に主体的，創造的に取り組み，自分の生きがいや生き方を考えたりする学習を求めているからです。

本領域では，こうした生活科と総合的な学習の理論と実践についての研究を深め，理論に裏付けられた実践的指導力を身に付けるために，大学内での講義，演習のほかに，県内外の先進校や研究指定校の視察あるいは近隣学校のボランティアをしながら，研究を進めることをベースにおいています。また，本学附属学校の主催する研究協議会への参加，本学と愛知県教育センターとの連携による5年目経験者研修，10年目経験者研究への参加を積極的に行っています。修士論文の作成においては，毎年，本領域で発行している紀要の論文・研究ノートの執筆，生活科と総合的学習に関連する学会での研究発表を義務づけ，広く外部からのコメントを求めることも重視しています。

教員名	専門分野
※野田敦敬教授	生活科教育・総合的学習
中野真志教授	生活科教育・総合的学習
加納誠司准教授	生活科教育・総合的学習

【最近の修士論文のテーマ】

・「ふるさと総合学習の理論と実践に関する研究」
・「生活科・総合的学習の体験活動における『豊かな学び』とその指導原理－ジョン・デューイの『思考論』、『芸術論』と矢の智司の『生命論』から長野県の教育実践『動物を飼う暮らし作り』を考察する試みを通して－」
・「幼保小接続期カリキュラムにおける生活科を核としたスタートカリキュラムの開発」
・「幼児教育及び生活科における身近な小型動物飼育を通して育む生命尊重の態度の研究」
・「生活科において学習意欲を高める教師支援に関する研究」
・「デューイ実験学校における総合的な歴史学習の理論と実践に関する研究－断片的な知識の再接続と諸学問分野の接続を分析視角として－」
・「生活科の学びを生かした第3学年理科学習の単元開発に関する研究－生活科の学びを生かした学習過程のモデル作成を通して－」
・「内的視点に着目した生活科の授業研究に関する研究」

【就職状況】

平成28年3月の修了生は3名でした。そのうち，宮城県仙台市の小学校教員1名，他の2名は，1名が退職校長であり，現在，本学及び愛知県内の私立大学で非常勤講師をしています。また，他の1名は長野県の小学校の現職教員です。平成29年3月の修了生は5名でした。そのうち，愛知県の小学校教員2名，沖縄県の小学校教員1名，岐阜県の私立幼稚園の教諭1名，もう1名は愛知県の中学校で常勤講師をしています。

発達教育科学専攻　日本語教育領域

【理念と特色】

当領域の教育目標は，国内外の学校をはじめとするさまざまな教育機関で日本語教育や異文化間教育に従事する人材の養成であり，つねに広い視野に立った上で専門性を深める能力の育成を心掛けています。当領域で開講される科目の履修の仕方によっては，教員専修免許状に研究分野として「日本語教育」が記載されます。

また，平成17 年度に大学院の中に小学校教員免許取得コースが設置されて以来，小学校教員をめざしながら，外国人児童の教育について研究する大学院生が増えており，すでに１０名以上が小学校に就職しました。

教員名	専門分野
田村建一教授	言語学，言語政策
北野浩章教授	言語学
時衛国教授	対照言語学
上田崇仁准教授	日本語教育学

【最近の修士論文のテーマ】

・否定疑問文における日独対照研究－翻訳を手がかりに－
・外国につながる子どもの就学前後における支援－集団への読み聞かせに注目して
・日本語学習者と日本語教員の考える「いい先生」と「いい授業」
・外国人児童の教育と言語習得－会話力・語彙力の観点から
・程度を表す副詞の意味分析－とても・大変・ずいぶん・だいぶ・かなり・よく・本当に－
・「理論知識」から「運用能力」への橋渡し－中国の大学日本語教育方法（会話と聴解を中心に）の再構築－
・日本語間接受身文について－日本語母語話者と学習者の視点から－
・JSL児童に必要とされる就学前後の日本語支援－小学1年生に対する教師の発話を分析して－
・副詞の用法と呼応の変遷について－明治時代から現代までを中心に－
・インドの多言語状況に関する研究－来日中の日系企業のインド人研修生への調査を通して－

【就職状況】

これまで主として中国，台湾，タイ等の国外の大学や，国内の小・中・高校，日本語教育機関，および企業に就職しています。また，本学および他大学の大学院博士後期課程に進学した者も何人かいます。

発達教育科学専攻　情報教育領域

【理念と特色】

現在では，公立学校のほとんどがインターネットに接続されており，そのうち半数以上の学校が高速インターネットに接続されています。家庭においてもパソコンやスマートフォンなどを使ったインターネットの利用が広まっています。急激な情報化の流れのなかで，現代の子どもたちは，自分自身の安全を確保しつつ情報化社会に対応してゆく能力を身につけることが必要とされています。情報教育に関して適切な指導ができ，さらに，学校の情報環境を利用してさまざまな教科で，わかりやすい授業を展開できる教員が求められています。

本領域の学生は，情報教育のあり方を含め，学校における情報教育に関する諸問題の研究とともに，広く情報技術を活用した教育支援のあり方，新しい指導法の開発の研究も行います。さらに，学校で必要とされる，サーバーの管理運営やメディア教材開発などの実践技術を修得することも可能です。

本領域が期待するのは，こうした情報教育関係の知識および研究態度を身につけ，学校や教育関連分野で情報教育の指導者・研究者となり得る人材です。

具体的には，次のような学生像を想定してカリキュラムが組まれています。

・情報教育に興味のある人
・分かりやすい授業を実践するための教材開発，情報機器を利用した授業実践・授業カリキュラムの開発に興味のある人
・教育に有用なシステム開発に興味のある人

現在，本領域では，本学の学部や他大学からの進学者，現職教員や社会人など職業を持っている人，留学生など，多様な学生がともに学んでいます。

教員名	専門分野
中西宏文　教授	情報科学（音声認識，情報ｼｽﾃﾑ開発，情報ﾘﾃﾗｼｰ教育）
野崎浩成　教授	教育工学（情報教育，計量言語学）
江島徹郎　教授	教育工学（メディア開発）
伊藤俊一　准教授	認知科学（言語理解，ﾋｭｰﾏﾝｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ）
梅田恭子　准教授	教育工学（教材開発，情報教育）
福井真二　准教授	情報科学（画像理解）
齋藤ひとみ　准教授	認知科学（問題解決，学習）

【最近の修士論文のテーマ】

・普通教科「情報A」における「情報活用の実践力」を育成するための授業プログラムの提案
　－プレゼンテーション学習を通して－
・ポートフォリオを用いた教科「情報」における情報活用の実践的育成
　－話し合い活動による評価基準作成を中心として－
・情報基礎教育におけるペア学習に関する研究
・学習形態による作問演習の内容の検討－ネット通販を題材にして－
・生徒の学習結果に応じた練習問題推薦システム開発
・自閉症児の発達段階に応じたコンピュータを活用した言語指導法
・文章作成における読点推敲支援
・韓国人日本語学習者向けのカタカナ外来語の辞書づくり　－重要語の選定と長音の習得を中心として－
・地図と連携した歴史を表示するオンライン補助教材の開発
・Individualism and Collectivism in Japanese and American Modern Movie

【就職状況】

教員のほか，システムエンジニア等，コンピュータ関連の企業へ就職する者もいます。
他大学の大学院博士課程に進学し，さらに研究を続ける者もいます。

特別支援教育科学専攻

【理念と特色】

学校教育法等の一部改正により，特別支援教育への取り組みが平成19年度より開始されました。特別支援学校では，在籍する児童生徒の指導のみならず，地域のセンター的役割が求められ，小・中学校の通常の学級では，学習障害（ＬＤ），注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ），自閉症スペクトラム障害（ＡＳＤ）等に積極的な支援を行い，障害別の特殊学級も特別支援学級となりました。このように一人ひとりのニーズに応じた取り組みが行われています。

本専攻では，障害児のニーズに適切に対応でき，広範な実践的指導力を有する専門職，さらには障害児の教育や福祉に関する高度かつ総合的・多面的・柔軟な研究を進展していく人材を養成することを目的としています。

研究内容は，特別支援教育や福祉に関する基礎学から応用・実践学まで幅広く，教育・心理・福祉・医療の連携を重視した講義や演習を開講しています。特に，教育現場での実践活動に焦点を当て，「指導計画－実践－評価」に関する実践総合力の向上に取り組んでいます。また，本学の特別支援教育・福祉に関わる教員による臨床・地域支援活動への参加だけでなく，教育臨床総合センター・発達支援研究部門や附属特別支援学校，地域の教育・福祉機関と密接に連携することにより，高度な実践的指導力の育成を図っています。

大学院生は，学部からの直進者及び特別支援学校・小中学校の教員，福祉・保健機関の職員，留学生など多様です。特に，研究実績のある現職教員や障害児者施設職員等を積極的に受け入れています。本学には特別支援教育特別専攻科（特別支援教育専攻）が併設されており，これらの課程を修了し，特別支援教育の基礎を学んだ後に大学院に進学する学生もいます。

修士論文の指導は，指導教員による個別指導のみならず，全教員・全大学院生が一同に会して行う研究発表会でもなされます。１年次後期に構想発表会，２年次には前期・後期１回ずつの中間発表会，２月に最終発表会を開催しています。

教員と大学院生の共同研究の一部は，『障害者教育・福祉学研究』や各学会・研究会等に投稿され，成果を学内・学外に公表しています。

教員名	専門分野
小田侯朗　教授	聴覚障害教育
吉岡恒生　教授	発達臨床心理
森﨑博志　教授	発達臨床心理
佐野真紀　准教授	ソーシャルワーク
岩田吉生　准教授	聴覚言語障害教育
青柳まゆみ　准教授	視覚障害教育
飯塚一裕　准教授	発達障害児の教育・指導

【最近の修士論文のテーマ】

・障がい児の家族の支援に関する研究－行政計画における支援を中心に－
・知的障害者とその家族への支援に関する一考察－知的障害者の母親の語りを通して－
・放課後等デイサービスに対する保護者のニーズ及び実態の調査について
・自閉症児等を育てる母親への支援の一考察
・重症心身障害児と保護者を支える訪問教育の新たな可能性
・自閉性障害児と教師における関係形成の過程に関する研究
・成人肢体不自由者への動作法と日常生活動作－実践場面と生活場面に関わって－
・知的障害を伴う自閉スペクトラル症児の数量概念の指導に関する一考察
・重度・重複障害児における粗大運動と認知・コミュニケーションとの発達的関連

【就職状況】

学部直進者は，特別支援学校や小・中学校の通常学級・特別支援学級の教員等の教育機関等に就職しています。修了後，教育・臨床実践あるいは留学等を経て，大学の教員として就職している人もいます。現職教員及び現職福祉関係者は，特別支援学校や小・中学校等の教育現場及び福祉施設等において指導的立場で活躍しています。

養護教育専攻

【理念と特色】

１．本専攻の歩み

養護教諭の専門領域である「養護教育」に関する研究は，昭和53年（1978年）の大学院開設時から，保健体育専攻の中にある学校保健学専修の一分野として位置づけられてきました。その後，平成5年（1993年）に日本で最初の養護教育専攻として，新たに発足したという歴史を持っています。

２．カリキュラム

養護教諭としての学問的基盤を支える「養護教育学」と「基礎および臨床医学」・「看護学」などの講義と演習，さらには修士論文作成を通して，実践的研究能力を高めていきます。

また，学校教育専攻科目（教育学，教育心理学）や教科教育専攻科目なども必修として学ぶほか，他の専攻の授業も自由に受講できるなど，充実したカリキュラムとなっています。

３．取得できる免許（それぞれの１種免許状取得者のみ）

養護教諭専修免許状・中学校教諭専修免許状（保健）・高等学校教諭専修免許状（保健）

教員名	専門分野
古田真司教授	公衆衛生学
櫻木惣吉教授	生理学
藤井千恵教授	小児保健
福田博美教授	看護学
山田浩平准教授	学校保健学
岡本　陽准教授	学校栄養学

【最近の修士論文のテーマ】

・効果的な保健学習のあり方に関する研究　－保健学習における学習者と授業者の差異の検討－
・小学校における次亜塩素酸を用いた環境消毒による感染症予防の評価
・地震発生時における学校の危機管理体制に関する課題の検討　－事業継続計画策定の視点から－
・中学校教師が抱く信頼感と指導行動が生徒の学校適応感に及ぼす影響
・定時制高校における計画的な保健指導の実施推進に関する研究
　－教頭・副校長と養護教諭の意識調査をもとに－
・健康教育の活性化にむけた担当教師に対する支援課題の把握
　－小学校学級担任の保健学習に対する指導意欲を通して－
・複数配置校における養護教諭同士の人間関係を円滑にする要因についての検討
・歩数計を活用した身体活動推進のための介入研究　－学校と家庭が共に取り組む実践を通して－
・学校行事が中学生の自己効力感や学校適応感に及ぼす影響についての検討
・チーム援助を生かした健康相談に関する研究
・中学校区の幼児・児童・生徒と保護者の歯科口腔の保健に関する研究
・保護者の養育態度や家族機能が子どものレジリエンスとセルフエスティームに与える影響
・養護教諭志望学生に対するタッチング指導プログラムの検討　－身体接触への抵抗感に着目して－
・大学生の健康情報リテラシーを高めるための基礎的研究　－健康情報リテラシーテスト開発の試み－

【就職状況】

学部直進者は，養護教諭として教育機関等に就職しています。修了後，博士課程への進学をしている人もいます。現職の養護教諭は復帰後，現場で指導者的な立場で活躍しています。また，県内外の大学・短期大学等の教員や職員として，教育研究職に携わっている人もいます。

学校教育臨床専攻

【理念と特色】

本専攻は，不登校・いじめ・中途退学・怠学・学級崩壊等々の学校を巡る子どもたちの問題に適切に対処できる人材（スクールカウンセラーをはじめとする教育臨床の専門家）の養成と教員のリカレント教育を目的として，平成12年度に設立されました。

平成14年度には，（財）日本臨床心理士資格認定協会の第１種養成大学院の指定を受け，本専攻（臨床心理学コース）で所定の単位を修得した者には，修了と同時に臨床心理士の受験資格が付与されることとなりました。したがって，本専攻では，教育臨床学・心理臨床学の知識や理論の習得のみならず，それらの知見に基づき，教育分野をはじめ，広く子どもたちへの援助が求められる福祉や司法，医療など様々な臨床分野において活躍できる，高度な専門性を身につけた心理臨床家の養成を目指しています。

この理念から本専攻のカリキュラムには以下のような特色があります。まず教育臨床学・心理臨床学の基本的な知識と技法を習得するために，臨床心理学特論，臨床心理面接特論，臨床心理査定演習などを必修科目と位置づけています。さらに臨床心理学の多様な理論や技法の詳細な理解を促すために，家族心理学特論，遊戯療法特論，学校臨床心理学特論，投影法特論などの受講科目を，特定の学派に偏らないように配慮し開講しています。これらの専門的な講義や演習と並行して，平成19年度に移転新設され，実習機関としては恵まれた環境を備えた心理教育相談室を活用して，臨床心理面接を実際に担当する臨床心理基礎実習・臨床心理実習を開設しています。さらにこの学内実習に加えて，2年次には，必修科目である学外実習として病院実習を開講しています。

なお，本学が教育系大学であることもあり，本専攻の特色として，附属学校を中心とした学校現場や教育相談機関における実習の機会が充実していることがあげられます。修士1年生に対しては，本学の附属学校や近隣の公立学校での学校臨床実習が通年で開講しており，修士2年生に対しては，施設実習として学校教育現場や教育相談機関での実習を開設しています。在学中に子どもたちに直接かかわる機会を多く持つことができ，児童期，思春期の子どもたちへの支援に関する専門性を高めやすい環境です。

以上，本専攻の特色として，臨床心理学の理論や技法の習得のみならず，学内に加えて学外での実際の臨床経験を非常に重視していることがあげられます。学術的な専門的知識に裏打ちされた職能を身につけ，かつ高い臨床実践能力を持った心理臨床家の養成を本専攻では行っています。

教員名	専門分野
祖父江　典人　教授	臨床心理学，精神分析的心理療法
下村　美刈　教授	投影法，トラウマケア
廣瀬　幸市　教授	心理臨床学，心理療法論
三谷　聖也　准教授	家族心理学，短期療法
原田　宗忠　講師	児童期臨床，精神分析的心理療法

【最近の修士論文のテーマ】

・特別支援教育の連携プロセスにおけるスクールカウンセリングの専門性について
・子どもの認知する親の自己愛傾向が子どもに与える影響
・前思春期の女子が異界を体験することに関する臨床心理学的研究-プレイセラピーの一事例を通して-
・心理臨床面接における家族関係投影図式投影法の有効性に関する研究
・不登校の前駆状態の心理的過程の解明と予防的介入に関する研究
・アイデンティティにおける「個」と「関係性」からみた青年期の対人関係についての一考察－箱庭表現を用いて－
・中学生における親の期待の受け止め方と親への感情との関連

【進路状況】

これまでの実績では，県スクールカウンセラー，附属学校スクールカウンセラー，精神病院／クリニック臨床心理士，心理教育相談室技術補佐員，発達支援相談室技術補佐員，児童相談所児童心理士，情緒障害児短期治療施設臨床心理士，児童養護施設臨床心理士，教育支援センター相談員，公務員（心理専門職）等に就職しています。就職以外では大学院博士後期課程への進学者もおります。

臨床心理士試験に関しては，2016年度修了生の受験者は11名，合格者は9名（合格率82%）です。

国語教育専攻

【理念と特色】

国語教育専攻の目的は，日本並びに中国の言語・文学・思想・書道等の広い視野に立つ学識を修め，国語科教育の専門分野及び教育実践の場における理論・認識・応用の研究能力を高め，もって教育研究を推進しうる能力を養うことにあります。

その目的に沿って，国語教育専攻は「国語科教育学領域」と「国語科内容学領域」の二領域によって構成されています。国語科教育学領域は，今日的な教育課題の根幹を国語科学習の内容や目的・構造・歴史等の面から考察するものです。今後ますます重視される国語力の重要性やその内容，歴史的な検討等の他，実践的な方法論・評価論等も扱い，理論と実践について総合的に学ぶことができます。

国語科内容学領域は，国語科教育学の基盤となる様々な分野の専門的研究を目指しています。国語科教育は学校教育の基礎・基本を形成するものですが，その前提に日本語と日本文化，その歴史的背景，源流としての中国の文化や思想等についての高度な学問基礎を構築することで，より豊かな教育を具体的に実践することができます。国際化・情報社会の中で求められている日本人としてのアイデンティティのあり方，自然や他者との豊かな共生等，今日的な教育課題を考えるとき，国語科内容学領域の重要性が改めて認識されています。

入学生は，本学学部卒業生だけではなく，他大学卒業生も多く，さらには現職教員，海外各国からの留学生など多様です。

国語科教育学領域

教員名	専門分野
有働　裕　教授	国語科教育（文学教材・古典）
丹藤博文　教授	国語科教育（文学教材・近現代）
木村博昭　教授	国語科教育（書写・書道）
衣川彰人　教授	国語科教育（書写・書道）

国語科内容学領域

教員名	専門分野
矢島正浩　教授	国語学（文法史）
田口尚之　教授	国文学（上代・中古文学）
奥田浩司　准教授	国文学（近代文学）
鈴木達明　准教授	漢文学（中国文学）

【最近の修士論文のテーマ】

・コミュニケーション行為としての音声言語教育－中学校国語科を中心に－
・小学校国語科教科書における戦争文学教材の研究
・ファンタジー教材の研究－『星の王子さま』（サン＝テグシュペリ）を中心に－
・読みの授業における〈語り〉の研究
・談話における発話者間の心的距離に関する研究
・近代日本語における敬語体系の変容
・近世後期から現代の小説資料における原因・理由表現の変遷
・梶井基次郎論－テクストの構造と視覚性に注目して－
・よしもとばなな研究
・古典教育論－関係概念を中心に－
・『本朝二十不孝』研究－「孝」から逸脱する説話

【就職状況】

修了生のほとんどが小・中学校，高等学校の教員になっています。大学院（博士課程）への進学，教育関係機関，公務員への就職もあります。現職教員は小・中学校，高校に復帰し，指導的な立場で活躍しています。

英語教育専攻

【理念と特色】

英語教育専攻の領域は，大きく「英語科教育学」と「英語科内容学」に分かれます。入学後の領域変更はできませんが，専攻内での他領域の受講は可能です。「英語科内容学」はさらに「英米文学」と「英語学」に分かれ，多彩な授業科目が設定されています。選択履修により，小学校・中学校・高等学校の教員にも，あるいは研究者にも適するような授業内容を用意しています。

英語科教育学では，小学校・中学校・高等学校における英語教育が抱える課題を絶えず認識し，第二言語習得論や関連する諸学問，及び英語科内容学の成果を教育現場に活かす応用力の育成を目指します。具体的には，理論に基づく実践の構築，及び英語学習，教育の効果を科学的に検証することにより，有効な学習法，指導法を探求します。また教員養成大学の特性を生かして，研究成果を教育現場で活用し，現職教員からのフィードバックを得て，研究を更に深めるという「研究」と「教育」を循環させる環境を整えています。学内外の各分野の専門家による集中講義も適宜実施しています。

英語科内容学（英米文学）では，イギリス文学・アメリカ文学・アイルランド文学を中心に，その背景となるそれぞれの歴史と文化も研究します。一口に「英語」といっても，時代や国によって大きく異なります。時間的・空間的に異なる英語を研究することは，「英語を読む力」を格段に向上させるだけでなく，歴史的，文化的現象を分析する「解釈力」を身につけ，多彩な文化についての理解力を養うことでもあります。優れた英語教師には不可欠なこうした力を鍛えるための様々な授業を用意しています。

英語科内容学（英語学）は，研究分野の新しい成果を採り入れつつ，英語という言語の特性を歴史的な視点と共時的な視点から，探求することを目標にします。英語という言語の成り立ちや仕組みは，研究対象として興味深いばかりでなく，それらの深い理解は，英語教育の確かな基礎を築く上で，欠かすことができないものです。こうした基本的な考え方に基づき，本専攻では英語史やコーパス言語学，伝統的な英語学の知見や理論的な英語研究等に関連する，多くの授業が開講されています。

英語科教育学領域

教員名	専門分野
高　橋　美由紀　教　授	英語教育（小学校英語教育）
ロビンズ・アントニー　教　授	英語教育（ＥＳＬ）
稲　葉　みどり　教　授	英語教育（第二言語習得）
建　内　高　昭　教　授	英語教育（応用言語学）
田　口　達　也　准教授	言語教育心理学

英語科内容学領域

教員名	専門分野
道木一弘 教授	英文学（イギリス・アイルランド文学）
尾崎俊介 教授	米文学（２０世紀アメリカ文学，出版史）
小泉直 教授	英語学（理論言語学）
濵嵜通世 准教授	英語学（英文法・英語学）
小塚良孝 准教授	英語学（文献学）
ﾗｲｱﾝ・ｱﾝｿﾆｰ 准教授	オーラルコミュニケーション・談話分析等
ﾍﾞﾈﾏ・ｼﾞｪｰﾑｽ 准教授	英語教育学

【最近の修士論文のテーマ】

・An Analysis of the English Reading Process of High School Students in Japan
・A Study of Storytime Programs at Public Libraries in America
・An Analysis of Demotivation among Junior High English Learners
・θ-Marking and the Structure of Noun Phrases in English
・A Study of the Beginning Students' English Proficiency and Communicative Competence: Errors Caused by Japanese Learners of English in Junior High School

【就職状況】

ほとんどの修了生が，県内公立学校教員（高校・中学校・小学校）になっています。他大学の大学院へ進学する修了生もいます。

社会科教育専攻

【理念と特色】

社会科は「社会生活についての理解を図り，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」教科と規定されています（２００８年度版『学習指導要領』より）。

社会科教育専攻は，こうした社会科について教育現場で中核的な役割を担い，また広く社会科に関わる教育・社会活動を通して日本社会さらには国際社会に寄与できるような教員や研究者を育成することを目標にしています。そのためには，現代社会の諸問題を多面的・多角的にとらえ，体系的に理解し，さらに自らの見識をもって行動できるような，深い学識と優れた実践力を育てていくことが必要になるでしょう。本専攻が社会科教育学領域と社会科内容学領域の２領域から構成されているのは，そのような学修をより深めていくためです。

社会科教育学領域では，教科としての社会科について研究していくことができます。さまざまな教材の検討・開発，その教授方法など，教科を構成するための重要な課題について，理論的な面からも実践的な面からも学修を深めることができますし，またそれらの課題を歴史的な視角からとらえ直すような研究も重要でしょう。さらに日本の社会科教育をより優れたものにしていくために，外国の社会科教育について研究し，視野を広げていくことも可能です。

社会科内容学領域では，社会科教育の基礎を形成する諸学問分野について，専門的知見を磨き，また教養の幅を広げ，それらを通して教科についての力量を深めていくことができます。この領域は哲学・倫理学，歴史学・民俗学，地理学・地誌学，社会科学（法学・政治学・社会学など），国際文化（日本・東アジア・欧米などの社会・文化研究）の５分野から構成されており，豊かな学修を進めることが可能になっています。

以上のように，本専攻は，教員養成大学の大学院としては比較的多様な学問分野の研究者を擁し，その特色を生かして上記の目標を達成するための体制をとっているのです。

社会科教育学領域

教員名	専門分野
土屋武志 教授	社会科教育（歴史教育）
近藤裕幸 教授	社会科教育（地理教育）
真島聖子 准教授	社会科教育（公民科教育）

社会科内容学領域

教員名	専門分野
前田勉 教授	哲学・倫理学（日本近世思想史）
吉田健太郎 准教授	哲学・倫理学（西洋近世思想史）
今村健一郎 准教授	哲学・倫理学（西洋近現代哲学）
松島周一 教授	歴史学（日本中世史）
野地恒有 教授	歴史学（日本民俗学，近現代庶民生活変遷史）
渡邉英幸 准教授	歴史学（中国古代史）
※伊藤貴啓 教授	地理学・地誌学（経済地理学）
阿部亮吾 准教授	地理学・地誌学（都市地理学）
◎青嶋敏 特別教授	社会科学（民事法）
清田雄治 教授	社会科学（憲法）
石丸博 准教授	社会科学（政治社会学）
◎納谷昌宏 特別教授	国際文化（ドイツ語学，言語学）
中筋由紀子 教授	国際文化（比較社会学，現代社会学）
堀内真由美 准教授	国際文化（西洋社会史，ジェンダー論）
マイヤー・オリバー 教授	国際文化（人文地理学，ドイツ語教育法）
嶺崎寛子 准教授	国際文化（文化人類学，イスラーム地域研究）
西尾圭一郎 講師	国際文化（金融論，国際金融論）

【最近の修士論文のテーマ】

・歴史学習における「情報活用能力」育成理論の構築
・民主的・平和的な市民を育成するための新聞教育の構想
・地理的分野における人間の生き方を問い続ける社会科学習－環境問題を取り上げた授業を例に－
・参加型学習を組み込んだ法教育の研究－模擬裁判の実践的研究を通して－
・金融教育カリキュラム構想
・高校日本史授業におけるモノ教材を取り入れた学習活動
・中国の教科書『品徳と社会』と日本の教科書『新しい社会』の比較研究
・ドイツの事実教育のコンセプト
・ドイツの倫理教育教材の考察
・律令制的官人機構の再検討
・日本古代国家の渡来人政策
・平安時代初期における衛府制度と儀式整備政策
・スコットランド宗教改革と自治都市
・中世後期スペインにおけるユダヤ人迫害運動

・中世カトリック教会の黒死病に対する態度
・テューダー朝期における行財政改革
・日本の「民芸」研究から見た中国民芸論－中国東北部における「剪紙」を中心に－
・日本における野菜産地の変遷－１９８０年代以降の市町村別動向に注目して－
・愛知県におけるスーパーマーケットの立地特性と購買行動の変化
・路面電車のある都市景観の特性と住民意識に関する考察－豊橋市を事例として－
・愛知県田原市における加工・業務用キャベツ栽培の発達とその要因
・陶行知の「小先生」に関する一考察－山海工学団と新安小学校での実践をもとに－
・ナチ時代の軍歌・戦時歌謡について－Nationalsozialistischer Liederschatzを中心に－

【就職状況】

修了生の多くが小・中学校・高等学校の教員となっています。現職教員の方たちも，それぞれの現場に復帰し活躍しています。

数学教育専攻

【理念と特色】

数学教育の目的には，児童・生徒が数学的な考え方を自ら学ぶことや，数学的教養を身につけることによって，社会・文化の発展に寄与することがあります。この目的のために，数学教育専攻は数学科教育学領域と数学科内容学領域の2つの大きな柱によって構成されています。

数学科教育学領域は，数学教育学の幅広い研究分野の専門家を擁しています。数学科教育学領域の教育内容の豊富さは日本でトップクラスです。また，数学科内容学領域は，代数学，幾何学，解析学，応用数学，計算機科学などから成る豊富な専門家を擁しています。小学校・中学校はもちろん，高等学校の教員にもふさわしい教育内容を用意しています。

合宿形式の授業研究会が数学教育専攻の必修科目になっており，大学院生の授業実践力を養うのに役立っています。また，数学科教育学領域では火曜会（数学科教育学の研究会），数学科内容学領域では金曜会（数学科内容学の研究会）を定期的に開催し，活発に研究活動を行っています。

入学生は，本学卒業生だけでなく，他大学卒業生，現職教員，留学生など多様です。

数学科教育学領域

教員名	専門分野
佐々木 徹 郎 教 授	数学科教育
飯 島 康 之 教 授	数学科教育
山 田 篤 史 教 授	数学科教育
青 山 和 裕 准教授	数学科教育

数学科内容学領域

教員名	専門分野
佐々木　守　寿　教　授	情報科学（ファジィ集合論）
植　村　英　明　教　授	応用数学（確率解析学）
竹　内　義　浩　教　授	幾何学（位相幾何学，多様体論）
小　谷　健　司　教　授	解析学（微分方程式）
安　本　太　一　准教授	計算機科学（言語処理系）
松　永　　豊　准教授	情報科学（ニューロコンピューティング）
橋　本　行　洋　准教授	応用数学（代数的確率論，離散力学系）
淺　井　暢　宏　准教授	解析学（無限次元解析，非可換（量子）確率論）
岸　　康　弘　准教授	代数学（整数論）
市　延　邦　夫　准教授	解析学（微分方程式）
井　上　　歩　准教授	幾何学（位相幾何学，結び目理論）
野　崎　　寛　講　師	代数学（代数的組み合わせ論）
佐久間　紀　佳　講　師	応用数学（確率論，確率過程論）

【最近の修士論文のテーマ】

・社会的文脈をいかし多変数を扱う「データの分析」の指導に関する研究
・組合せ構造から得られる極大距離集合について
・ガロア理論とガロアの逆問題
・「知の創造」に向けた統計関連領域の指導についての一考察－指導へ向けた基礎的研究　批判的解釈に着目して－
・小中学校段階における統計的問題設定に関する研究
・算数教育における児童の数学的な説明をかく力の実態と指導に関する研究
・数学教育における一般化に焦点を当てた発展的な考え方を促すための指導
・実数の連続性の公理と同値な性質
・グラフ理論に関する文章からの意味ネットワークの構築と評価
・算数教育における小数と分数の理解に関する考察
・数学教育におけるコミュニケーションの社会文化的アプローチによる考察
・高等学校数学における課題学習の実践的研究

【就職状況】

愛知県内の小学校・中学校・高等学校の教員への就職が中心です。
教育現場での数学科教員の需要は非常に高いので，就職状況は極めて良好です。

理科教育専攻

【理念と特色】

理科教育専攻では，理科教育講座に所属する多くの教員が大学院の教育と研究指導に当たっています。本専攻には理科教育学領域と理科内容学領域があり，後者はさらに物理学，化学，生物学，地学の４分野に分かれています。本専攻の特色としては，多様な教育・職業歴をもった大学院生の研究活動に関するニーズに柔軟に対応できる点が挙げられます。

本専攻は，理科教育学領域ならびに理科内容学領域の教育研究活動を基盤に，高度な能力を持つ教員の養成と，理科の教育や内容に関する諸問題について深い知識や研究能力を持つ人材の育成を目的とすることを理念としています。具体的には，理科教育学領域と理科内容学領域にはそれぞれ独自の特色があり，それぞれ次に示すようになっています。

〈理科教育学領域〉 小・中・高等学校や社会教育施設での理科教育における教育目的・教科課程・指導方法・教材構成・認知心理・学習評価・教師教育等に関わる諸問題の解決に向け，理論的・実証的な研究を推進できる専門的能力の育成とともに，その成果に即した高度な教育実践を展開できる力量の獲得を目標とします。

〈理科内容学領域〉 小・中・高等学校における理科（物理学・化学・生物学・地学）の内容理解の深化および考察力の強化，現代的理科内容の研究力の確保を教育研究活動の重点的目標とします。

理 科 教 育 学 領 域

教 員 名	専 門 分 野
大 鹿 聖 公 教 授	理科教育（理科教材開発，環境教育）
平 野 俊 英 教 授	理科教育（理科授業研究，教員養成）
戸 倉 則 正 准 教 授	理科教育（地学教育，防災教育）

理 科 内 容 学 領 域

教 員 名	専 門 分 野
三 浦 浩 治 教 授	物理学（構造物性，表面物理）
児 玉 康 一 教 授	物理学（素粒子・原子核物理学）
※岩 山 勉 教 授	物理学（半導体物理学）
伊 東 正 人 教 授	物理学（素粒子論）
宮 川 貴 彦 准 教 授	物理学（物性理論）
阿武木 啓 朗 准 教 授	物理学（理論・原子核物理学）
幅 良 統 准 教 授	物理学（宇宙物理学）
戸 谷 義 明 教 授	化学（化学教育，有機化学）
稲 毛 正 彦 教 授	化学（無機化学）
中 島 清 彦 教 授	化学（錯体化学）
中 野 博 文 教 授	化学（生物有機化学，有機反応化学）
赤 倉 松次郎 准 教 授	化学（反応計算化学）
長 昌 史 准 教 授	化学（物理化学）
日 野 和 之 准 教 授	化学（生物物理化学）
※菅 沼 教 生 教 授	生物学（植物生理学）
澤 正 実 教 授	生物学（発生遺伝学）

渡邊幹男教授	生物学（植物分子系統学）
加藤淳太郎准教授	生物学（植物遺伝学）
上野裕則准教授	生物学（動物細胞生物学）
島田知彦准教授	生物学（動物系統分類学）
三宅明教授	地学（岩石学）
高橋真聡教授	地学（宇宙物理学）
戸田茂教授	地学（固体地球物理学）
星博幸准教授	地学（地質学）
田口正和准教授	地学（気象学）
政田洋平講師	地学（天体物理学）

【最近の修士論文のテーマ】

〈理科教育学領域〉

・カナダ・アルバータ州の前期中等科学教育に関する研究
・理科学習ノートの使用実態と児童の学力形成に関する研究
・科学的認識の獲得に向けた理科授業の検証－仮説実験授業をもとに－
・アメリカの中学校理科教科書「BSCS Science & Technology」に関する研究
・物質の量的関係を重視した指導におけるモル概念の定着に関する分析
・直接的経験不可能な科学知識へのコミットメントの形成をめざす授業方略
・中学生のボーリングコアにおける堆積物の同定・対比能力
・理科教育における動物園を活用した教育連携に関する研究
・電磁誘導の理解における磁場の理解の影響に関する研究
・電流現象の論証構成能力と討論による構造遷移に関する研究
・企業のCSR活動を通した理科教育支援に関する研究
・河川の生態系を総合的に理解させるための中学校理科におけるカリキュラム開発に関する研究
・中学校理科における環境教育で育むべき能力・態度の育成を目指したカリキュラムの開発
・粒子モデルの科学的な操作の促進と物質概念の形成に関する研究
・概念的葛藤を引き出す視覚モデルの活用とその学習効果

〈理科内容学領域〉

・熱音響同期現象とパルス管エンジン
・平均場近似に基づく磁気双極子フェルミ気体の静的性質の解析
・カーボンナノチューブのナノスケールでの引きはがしに関する研究
・シアノビフェニル系液晶分子が結合したイミダゾリウム塩の結晶構造とその物性
・液晶分子が結合した金ナノロッドの外部電場による配列制御
・新奇な両親媒性化合物としての硫酸化フラーレン誘導体の合成とその界面化学的性質
・デングウイルス感染を阻害するガラクトサミン4,6－二硫酸の合成
・溶液中および固体状態におけるヒドラゾンーPd(II)錯体の光や熱による配位様式の変換
・可逆的なプロトンの付加解離が可能な単核および二核のヒドラゾンーPd(II), Pt(II)錯体の合成とクロミック挙動
・多様な配位様式を有するヒドラゾンーRu(II)錯体の合成と性質, および配位構造と電子状態の変換
・ポルフィリンおよびポルフィセン錯体の電子移動反応
・化学実験教材の開発と実践, 生物・化学発光関連の有機化学的研究
・細胞膜透過性を有するGalNAc誘導体の合成
・Cymbidium属とLycaste属を用いた遠縁交雑における雑種の作出と交雑親和性に関する研究
・マイクロサテライト解析による低地性2倍体タンポポの遺伝的特徴
・ツチガエルの幼生期の成長に関する温度特性
・埼玉県秩父市に分布する秩父石英閃緑岩の古地磁気学的研究
・敦賀湾東方域に分布する中新世貫入岩類の古地磁気方位とそのテクトニックな意義

・中新世火成岩の古地磁気方位からみた西南日本東縁部の回転運動
・濃飛流紋岩の古地磁気学的研究
・三重県に分布する中新統一志層群上部の浮遊性有孔虫化石層序
・宇宙ジェットにおける衝撃波の安定性
・大小マゼラン雲の軌道に関する研究
・ダイナモ理論を用いた銀河磁場構造の数値シミュレーション

【就職状況】

〈理科教育学領域〉

理科教育学領域では，ほとんどの修了生が公立ならびに私立学校の小・中・高等学校教員として就職するほか，他大学の博士課程への進学もあります。

〈理科内容学領域〉

理科内容学領域では，多くの修了生が小・中・高等学校教員として就職するほか，公務員，民間企業への就職する修了生がいます。また，他大学の大学院博士課程への進学を行う修了生もいます。

芸術教育専攻　音楽分野

【理念と特色】

本分野の基本理念は「包括的音楽性」を育てることにあります。包括的音楽性とは，ヨーロッパ音楽に偏ることなく多様なジャンルの音楽へ対応できる音楽性を追究するとともに，演奏や創作の技法，そして音楽を指導する方法論，さらにそれらを客観的に分析し考察するための手法を学ぶことで，音楽に対する感性を研ぎすまし追究していく中で得られる総合的な能力を指しています。大学院とは自身の専門性を深める教育課程と理解されがちですが，本分野では，たとえピアノや声楽，作曲を中心に研鑽を積む場合にも，自身の専門性をより深めていくために，特定の専門分野に限定することなく幅広い視野をもち，多元的かつ多角的に課題へ取り組むことで包括的音楽性を高めることを求めています。

本分野は「音楽科教育領域」と「音楽科内容学領域」の二つの専門からなりますが，どちらの領域を専攻しても多様な音楽について学ぶという包括的音楽性の獲得を目指すことに差異はありません。特色としては，音楽科教育領域では教育分野の研究方法を習得し研究を遂行していくことに重点が置かれており，音楽科内容学領域の指導レベルと学生の演奏技能は音楽大学の大学院と比べても遜色はありません。そのため修了後も研究活動や演奏活動を継続している人が少なくありません。また，修了生の多くが小学校や中学校，そして高等学校や大学でも活躍しています。包括的音楽性を具えた本分野学生の能力が教育界でも高く評価されている証左だと言えるでしょう。

音楽科教育学領域

教員名	専門分野
新山王　政和　教授	音楽科教育学

音楽科内容学領域

教員名	専門分野
武本京子　教授	器楽（ピアノ）
國府華子　准教授	器楽（ピアノ）
林　剛一　教授	声楽
橋本　剛　准教授	作曲，指揮

【最近の修士論文のテーマ】

・小中学校の音楽科授業（創作活動モデル案と評価試案の作成，その他）に関するもの
・小中学校の音楽科授業（歌唱・合唱，発声指導などのモデル案作成と授業への応用と適用，その他）に関するもの
・小中学校の音楽科授業（鑑賞，合唱と鑑賞を関連付けたモデル案と評価試案，その他）に関するもの
・小中学校の音楽科授業（楽曲イメージ奏法を活用したモデル案作成と授業への応用と適用，その他）に関するもの
・ピアノ曲の演奏法に関するもの，及びその具体的演奏技法やタッチの検討，ピアノ曲の楽曲分析に関するもの
・基礎的なピアノ演奏技術やその指導法の検討，及びそのモデル案の作成などに関するもの
・声楽曲の演奏法に関するもの，及びその具体的歌唱法や発音・発声の検討，声楽曲の楽曲分析に関するもの
・基礎的な歌唱技術やその指導法の検討，及びそのモデル案の作成などに関するもの
＊内容についてはAUEリポジトリ04学位論文（http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/handle/10424/1368）を参照して下さい。

【就職状況】

教員採用試験に合格し小学校，中学校，高等学校，特別支援学校や幼稚園・保育園で正規教員として学校教育に従事している者だけでなく，講師（非常勤講師も含む）としても多くの修了生が活躍しています。また少数ですが，大学教員（非常勤講師も含む）として後進の指導にあたっている者もいます。学校教育以外の場でも，音楽教室で講師を務めたり自ら音楽教室を経営したりして地域の音楽教育の中心的役割を担っている者や，合唱団や吹奏楽団などで中核的指導者として地域へ貢献している者もいます。

さらに，自らの研究の質や演奏技能を高めたり，力量の向上をめざして修了後さらに研鑽を重ねたりしている者もおり，その成果は大学院博士課程への進学や各種の演奏会・コンクールなどで表されています。

芸術教育専攻（美術分野）

【理念と特色】

本分野は，美術・工芸の専門的な技能や指導力を持った教員や，社会教育など様々な教育機関での教育者・指導者を育成することをめざしている。また，美術・工芸における創造性およびそれらの教育的な意味と価値を，幅広い作品制作と思索の積み重ねを通じて総合的に探究することを目的としています。

この目的に沿って，美術分野は，美術科教育学領域と美術科内容学領域のふたつの大きな柱によって構成されています。

まず美術科教育学領域では，美術教育学を中心に，美術教育の幅広い教育的内容をあつかっている。理論だけでなく，授業実践や美術実技との調和のとれた研究をおこなうことができます。

また美術科内容学領域では，美術教育のベースとなる様々な専門分野をあつかっています。たとえば，絵画，彫刻，デザイン，工芸，鋳造，ガラス造形，染織，日本美術史，東洋美術史，西洋美術史などがあります。教員養成系大学としては，多くの分野の専門スタッフを擁していることが大きな特色です。

これらの幅広い専門分野での研究を通して，本分野では高度な知識と実践的な指導力を身につけた教員や教育指導者などを養成してきました。

さらに学外の諸機関と連携した授業や教育活動をおこなうことによって，社会のニーズや教育現場の現状を理解した教育者の育成をはかっています。

美術科教育学領域

教員名	専門分野
竹井　史　教授	美術科教育
杉林英彦　准教授	美術科教育

美術科内容学領域

教員名	専門分野
○浅野和生教授	西洋美術史
遠藤透教授	工芸（金属工芸）
富山祥瑞教授	デザイン
※松本昭彦教授	絵画
鷹巣純教授	東洋美術史
井戸真伸准教授	デザイン（プロダクトデザイン）
佐々木雅浩准教授	工芸（ガラス）
安田篤生准教授	日本美術史

【最近の修士論文のテーマ】

・図画工作科の児童相互鑑賞における直感的な印象から分析思考へ展開する方法と評価に関する研究
　－高学年におけるワークシートの開発と実践事例を通して－
・名古屋市小学校における学校作品展の現状と課題
・西郷従道邸－明治の木造西洋建築－
・熊倉順吉について
・濱田庄司について
・長谷川潔について－時　静物画より－
・南桂子の銅版画

【就職状況】

修了者の進路は，公立・私立の小・中・高等学校教員，各種社会教育機関の教育者・指導者，一般企業の美術関連部署への就職，地方公務員などが多いです。大学院修了後さらに研究を重ねて，大学教員や博物館学芸員などの専門職に就く者も少なくないです。美術・工芸やものづくりに関連した職に就く場合が大半です。

保健体育専攻

【理念と特色】

保健体育専攻は，学校体育，運動・スポーツ・健康に関する複雑で多様な課題を積極的に解決できる高度な専門能力を備えた保健体育分野の専門家の育成をめざします。

本専攻は，保健体育科教育学領域と保健体育科内容学領域の二つの柱で構成されています。保健体育科教育学領域は，さらに保健科教育学と体育科教育学の二つに分かれ，学校体育における教材開発・授業設計・授業評価などの研究を行うことができます。保健体育科内容学領域は，体育学分野（体育史・体育社会学・体育心理学・体育哲学など），運動学分野（運動学・運動方法学・バイオメカニクス・生体力学・生理学など），学校保健学分野（学校保健・健康管理など）の三分野からなり，それぞれの視点から，運動・スポーツ・健康等の問題を深く掘り下げ研究することができます。

また，開講されている科目の学修と修士論文（学術研究）に取り組むことによって，社会における保健・体育・スポーツに関する問題を自らの関心からとらえる視点や，既知の知見や言説を確かな方法によって分析できる能力を身につけ，保健体育科の授業研究や教材づくりの力量を培うことをめざします。

入学してくる学生は，本学の卒業生のみならず，他大学の卒業生，現職教員，海外からの留学生など多彩です。学校現場との結びつきも強く，教育実践にいきる数多くの研究成果をあげています。

これまでの大学院修了者は，学校教育において教科研究・指導のリーダー的立場にある教員，あるいは大学において保健体育分野の教育・研究者になるなど，多くの優秀な人材を輩出しています。

保健体育科教育学領域

教員名	専門分野
○坂田利弘教授	保健科教育，衛生学
森　勇示教授	体育科教育
上原三十三教授	体育科教育
鈴木一成准教授	体育科教育

保健体育科内容学領域

教員名	専門分野
◎春日規克教授	運動学（運動生理学）
鈴木英樹教授	運動学（運動生理学，運動処方学）
寺本圭輔准教授	運動学（運動生理学，発育発達）
山下純平講師	運動学（体育方法）
筒井清次郎教授	体育学（体育心理学）
石川　恭教授	体育学（体育社会学）
三原幹生准教授	体育学（体育哲学）
頼住一昭准教授	体育学（体育史）
田中生雅教授	学校保健学（メンタルヘルス）
田中優司教授	学校保健学
榊原洋子准教授	環境保健学

【最近の修士論文のテーマ】

・「多様な動きをつくる運動」の促発指導に関する研究- 新体操のピボット指導の教材化への試み-
・ボールジャグリング学習過程における時空間的変数の変化
・G.H.ミードの社会的自我論からみる体育授業の機能について- A中学校の実践場面から-
・二重標識水法を用いた短時間エネルギー消費量の検討
・陸上競技短距離種目における疾走能力の評価方法の開発- バウンディング運動を用いて-
・小学校体育におけるなわとび運動「交互回しとび」の動感促発に関する研究
・体育授業における潜在的「格差」構造の形成に関する研究
・体育授業における「学習の勢い」を生み出すための教授方略及び教授技術の検証- 小学校高学年「ゴール型」ボール運動の介入実験授業を通して-
・ゴール型ボールゲームにおける学習内容に関する検討－学習指導要領とＴＧｆＵを中心に－
・教科体育におけるハードル走指導の体系論的研究－動感促発の観点から－
・市民的教養の形成を目指す保健授業作りの実践的検討－「放射能と健康」を例に－
・戦術的気づきを導くベースボール型の実践的研究－小学校高学年の実践を通して－
・小学校水泳授業の現状と児童の学習意欲に関する検討
・野球の内野手における守備動作に関する研究
・空手道の組み手競技場面における競技者間で行われる攻防の駆け引き

【就職状況】

本専攻の修了者は，ほとんどが小学校・中学校・高等学校の教員となっています。さらに研究を進めるため博士課程へ進学し，大学などの研究職に就いている者もいます。

家政教育専攻

【理念と特色】

人とモノがグローバルに行き交う現代にあっては，急激に変化する「生活」とそれを取り巻く人間関係や社会のあり方，人の生活と自然環境の関係を多面的に探究し，生活課題に主体的に共同で取り組み，「生活」を真に豊かなものに変えていくことが求められています。家政教育専攻は，この課題に向き合う教育・研究のあり方を追究することを目的としています。

「家庭科教育学領域」では，この課題に向き合う教育実践の創造のために教育理論，教育史，教育実践などの研究を中心に行い，「家庭科内容学領域」では，家庭科で追究される生活課題について，食物学，被服学，住居学，家族関係学，生活経営学，生活経済学，保育学，消費生活科学などの研究視点から研究します。その上で，「生活」を探究することと，そのことを人が生涯追究し続ける「学びの営み」について深い洞察をもった，家庭科教員など学校教育・社会教育の専門職，および公務員など生活に関わる専門職につける人材を養成しています。

家庭科教育学領域

教員名	専門分野
関根美貴 教授	家庭科教育
青木香保里 教授	家庭科教育

家庭科内容学領域

教員名	専門分野
◎早瀬和利 特別教授	栄養学
加藤祥子 教授	被服学
山根真理 教授	家族社会学
板倉厚一 教授	食品学
筒井和美 准教授	調理学

【最近の修士論文のテーマ】

・食品中の褐変物質の精製と機能性に関する研究
・子どもとつくる協同的な学びの探究－食と消費者教育をつないで－
・レース組み込みを活かした涼しいスカート
・落語表現に見る家族像の変遷
・生活の中での環境問題－衣類の洗濯排水からの考察－
・高校生のワークライフバランス意識に関する研究－名古屋市内の高校生を対象とした調査を中心に－
・小学校における食育－「食に関する全体計画」の提案－
・日本企業社会と男性性の構築－メディアと読者の関係－

【就職状況】

大学院修了者の進路としては，愛知県内の小・中学校及び高等学校の教員，一般企業への就職，他大学の博士課程への進学などがあります。

技術教育専攻

【理念と特色】

現代社会を主体的に，健全に生きるためには国民の一人ひとりが，ものづくりに関する実践的な理解と技術的素養を身に付けることが必要不可欠です。本専攻はこのような観点に立ち，製品の設計・加工技術，エネルギーの制御・利用技術，作物栽培等の生物育成技術，及びコンピュータ・情報通信技術など，生活及びものづくり=生産活動の基盤となる技術を，教育・研究の対象とするとともに，成長期にある子どもの全人格的な発達を促す上で有効な技術教育のあり方や展開等を重要な教育・研究課題としています。学部で習得した技術教育の実践的素養を基に，一層高度な理論的・教育的基盤を身に付け，豊かな研究能力と教育実践力を有した専門性の高い技術科教員の養成を目指しています。

技術教育専攻は，技術科教育学領域と技術科内容学領域によって構成され，それぞれの領域には以下の専門分野があります。

技術科教育学領域:技術科教育

技術科内容学領域:木材加工，金属加工，電気，機械，栽培，情報

これらの専門分野は，上に述べた技術教育に関する基本的な分野であり，教員免許に必要とされる科目に対応しています。それぞれ中学校技術分野の現行の学習指導要領での4つの技術に関する内容(材料と加工，エネルギー変換，生物育成，情報)に対応して教育・研究を進めています。技術科教育分野では，中学校技術・家庭科の技術分野を含めた技術教育全般に関する内容を扱っています。内容学領域の各分野では，それぞれの専門分野における専門研究を行うとともに，技術教育のそれぞれの専門に関する教材研究等も進められており，それらに対応した幅広い内容を扱っています。

大学院生は1年生段階から，いずれかの領域・専門分野に所属しますが，授業は両領域のものを受講して，技術教育に関わる幅広い専門知識を習得します。あわせて，修士学位を取得するための研究は所属した専門分野の研究室で担当教員の指導のもとで行い，最先端の研究成果を出すとともに専門的な研究能力を身に付けることになります。

技術科教育学領域

教員名	専門分野
本多満正教授	技術科教育
磯部征尊准教授	技術科教育

技術科内容学領域

教員名	専門分野
◎清水秀己特別教授	電気
太田弘一教授	栽培
鎌田敏之准教授	情報
北村一浩教授	機械

【最近の修士論文のテーマ】

・技術科教育における創造性の育成に関する実践的研究
・Ti-Ni形状記憶合金の姿勢保持具への応用
・高周波スパッタリングによるZnO透明導電性薄膜作成に関する研究
・中学校技術生物育成における壁面緑化の題材化についての研究

【就職状況】

本専攻は上にも記しましたが，有為な技術科教員の育成を第一義としています。したがって，修了生の多くは技術科教員になっています。他に小学校教員への採用もあります。その他には，公務員，情報産業や製造メーカの開発担当等として採用されています。

２　履 修 方 法

Course Works

(1) 領　域

Area specialisation

履修科目の選択範囲を広げ，総合的研究を可能にするため，学生の領域を設けます。
領域は次のとおりとします。

Wide-ranging elective courses are offered in each area (Table).

専攻		領域
発達教育科学専攻		教育学領域
		教育心理学領域
		幼児教育領域
		生活科教育領域
		日本語教育領域
		情報教育領域
特別支援教育科学専攻		特別支援教育科学領域
養護教育専攻		養護教育学領域
学校教育臨床専攻		学校教育臨床領域
国語教育専攻		国語科教育学領域
		国語科内容学領域
英語教育専攻		英語科教育学領域
		英語科内容学領域
社会科教育専攻		社会科教育学領域
		社会科内容学領域
数学教育専攻		数学科教育学領域
		数学科内容学領域
理科教育専攻		理科教育学領域
		理科内容学領域
芸術教育専攻	音楽分野	音楽科教育学領域
		音楽科内容学領域
	美術分野	美術科教育学領域
		美術科内容学領域
保健体育専攻		保健体育科教育学領域
		保健体育科内容学領域
家政教育専攻		家庭科教育学領域
		家庭科内容学領域
技術教育専攻		技術科教育学領域
		技術科内容学領域

(2) 研究科の修了必要単位数

Credit hours to be earned

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">開設科目
所属専攻</th><th colspan="7">発達教育科学専攻科目</th><th rowspan="2">特別支援教育科学専攻科目</th><th rowspan="2">養護教育専攻科目</th><th rowspan="2">学校教育臨床専攻科目</th><th colspan="2">教科教育専攻科目</th><th rowspan="2">特別研究科目</th><th rowspan="2">自由選択科目</th><th rowspan="2">合計</th></tr>
<tr><th>教育学領域科目</th><th>教育心理学領域科目</th><th>幼児教育領域科目</th><th>生活科教育領域科目</th><th>日本語教育領域科目</th><th>情報教育領域科目</th><th>他領域科目</th><th>教科教育学に関する科目</th><th>教科内容学に関する科目</th></tr>
<tr><td rowspan="6">発達教育科学専攻</td><td>教育学領域</td><td>12</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="6">2
注1</td><td rowspan="6"></td><td rowspan="6"></td><td rowspan="6"></td><td rowspan="6">4</td><td rowspan="6"></td><td rowspan="6">4</td><td rowspan="6">6</td><td rowspan="6">30</td></tr>
<tr><td>教育心理学領域</td><td>2</td><td>12</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>幼児教育領域</td><td>2</td><td>2</td><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>生活科教育領域</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>10</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>日本語教育領域</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td>10</td><td></td></tr>
<tr><td>情報教育領域</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td>10</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別支援教育科学専攻</td><td>2</td><td>2</td><td colspan="5">2
注1</td><td></td><td>10</td><td></td><td></td><td>4</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">養護教育専攻</td><td>2</td><td>2</td><td colspan="5">2
注1</td><td></td><td></td><td>10</td><td></td><td>4</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">学校教育臨床専攻</td><td>2</td><td>2</td><td colspan="5">2
注1</td><td></td><td></td><td></td><td>14</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科教育専攻</td><td>教科教育学領域</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">2</td><td colspan="5" rowspan="2">2
注1</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>10
注2</td><td>4</td></tr>
<tr><td>教科内容学領域</td><td>6
注2</td><td>8</td></tr>
</table>

注 1 発達教育科学専攻所属の者は，自領域以外の同専攻領域から選択して２単位を履修します。それ以外の専攻に所属する者は，発達教育科学専攻の教育学・教育心理学の２領域を除く４領域から選択して２単位を履修します。発達教育科学専攻科目の各領域から履修する各２単位は入学後に配付される時間割表にある※の科目を履修すること（全専攻共通履修科目）。

2 教科教育専攻の教科教育学に関する科目のうち，２単位は各教科教育専攻が指定する教材論を主題とする専攻内共通科目を履修します。

３　教 育 職 員 免 許 状

Teacher Certification

教育職員免許法別表第１，別表第２に基づく１種免許状取得者または所要資格を有している者が，教育学研究科において教育職員免許法に定める所定の単位を修得すれば，それぞれ次の専修免許状を取得することができます。ただし，授業科目によっては，専修免許状取得のための所要科目となりませんのでご注意ください。

Master's degree programs lead to Advanced Teacher's Certificates. Holders of certification to teach in Japanese schools can file application upon the completion of requirements set forth by the Ministry of Education, Science and Technology. Students are advised to check which courses are relevant for certification to teach a specific subject at a specific school.

【 各専攻における，取得可能な教育職員専修免許状の一覧表 】

<table>
<tr><th colspan="2">専　　攻</th><th>免許状の校種</th><th>免許状の校種</th><th>免 許 教 科</th><th>免許状の校種</th><th>免 許 教 科</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">発達教育科学専攻</td><td rowspan="3">小学校教諭
幼稚園教諭
養護教諭</td><td rowspan="3">中学校教諭</td><td rowspan="3">国語，英語
社会，数学
理科，音楽
美　　術
保健体育
保健，家庭
技　　術</td><td rowspan="3">高等学校教諭</td><td rowspan="3">国語，書道
英語，公民
地理歴史
数学，理科
音楽，美術
保健体育
保健，家庭
情報，福祉
工　　業</td></tr>
<tr><td colspan="2">学校教育臨床専攻</td></tr>
<tr><td colspan="2">特別支援教育科学専攻</td><td>特別支援
学校教諭</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">養護教育専攻</td><td>養護教諭</td><td rowspan="11">中学校教諭</td><td>保　　健</td><td rowspan="11">高等学校教諭</td><td>保　　健</td></tr>
<tr><td colspan="2">国語教育専攻</td><td>小学校教諭
幼稚園教諭</td><td>国　　語</td><td>国　　語
書　　道</td></tr>
<tr><td colspan="2">英語教育専攻</td><td></td><td>英　　語</td><td>英　　語</td></tr>
<tr><td colspan="2">社会科教育専攻</td><td>小学校教諭</td><td>社　　会</td><td>地理歴史
公　　民</td></tr>
<tr><td colspan="2">数学教育専攻</td><td>小学校教諭
幼稚園教諭</td><td>数　　学</td><td>数　　学</td></tr>
<tr><td colspan="2">理科教育専攻</td><td>小学校教諭</td><td>理　　科</td><td>理　　科</td></tr>
<tr><td rowspan="2">芸術教育専攻</td><td>音楽分野</td><td rowspan="2">小学校教諭
幼稚園教諭</td><td>音　　楽</td><td>音　　楽</td></tr>
<tr><td>美術分野</td><td>美　　術</td><td>美　　術</td></tr>
<tr><td colspan="2">保健体育専攻</td><td>小学校教諭
幼稚園教諭
養護教諭</td><td>保健体育
保　　健</td><td>保健体育
保　　健</td></tr>
<tr><td colspan="2">家政教育専攻</td><td>小学校教諭</td><td>家　　庭</td><td>家　　庭</td></tr>
<tr><td colspan="2">技術教育専攻</td><td></td><td>技　　術</td><td>工　　業</td></tr>
</table>

〔備考〕上記のうち，芸術教育専攻の免許教科は音楽分野については音楽，美術分野については美術とします。

４　入学料の免除及び徴収猶予
Entrance Fee Waiver and Deferment Policy

入学料の免除は，経済的理由によって入学料の納入が困難であり，かつ，学業優秀と認められる場合又は次のいずれかの特別の事情により入学料の納入が著しく困難であると認められる場合に申請の対象となります。

(1) 入学前１年以内に学資を主として負担している者が，死亡又は風水害等の災害を受けた場合
(2) 生活保護法による被保護世帯の場合
(3) 学資を主として負担している者が，身体障害者の場合
(4) 学資を主として負担している者が，６か月以上の療養者の場合
(5) 学資を主として負担している者が，入学前１年以内に倒産又は失職した場合
(6) 学資負担者が大規模な災害により災害救助法適用地域において被災し，一定の条件を満たした場合

審査及び選考は経済的理由による場合は家計及び学力を，特別の事情による場合は家計を対象に行い，免除の額は全額又は半額又は一部です。
入学料の徴収猶予は，経済的に入学料の納入が困難であり，学業優秀であると認められる場合に申請の対象となります。
審査及び選考は家計及び学力を対象に行い，許可された場合，猶予期限は９月末日です。

Those with good academic standing who have financial difficulties or those in one of the specific needy circumstances listed below may file application for entrance fee waiver.
(1) The breadwinner of the household died or suffered a natural disaster during the academic year prior to the applicant's entrance to the university.
(2) The family is on welfare under the Livelihood Protection Law.
(3) The breadwinner of the household is handicapped.
(4) The breadwinner of the household has been under medical treatment for six months or longer.
(5) The breadwinner of the household went bankrupt or lost his or her job during the academic year prior to the applicant's entrance to the university.
(6) The breadwinner of the household has suffered from a large-scale disaster in a region subject to the Disaster Relief Act, and fulfills certain conditions.

For those in one of the above-listed circumstances, the selection is based on financial situation. For others, the selection is based on academic record as well as on financial situation. In either case, the amount to be waived is all, half or part of the entrance fee. The deferment of entrance fee is granted to those with good academic standing who have financial difficulties. The selection is based on academic record and financial situation. The payment is to be made by the end of September.

５ 授 業 料 の 免 除
Tuition Waiver and Deferment Policy

授業料の免除は，経済的理由によって授業料の納入が困難であり，かつ，学業優秀と認められる場合又は次のいずれかの特別の事情により授業料の納入が著しく困難であると認められる場合に申請の対象となります。

(1) 入学前１年以内に学資を主として負担している者が，死亡又は風水害等の災害を受けた場合
(2) 生活保護法による被保護世帯の場合
(3) 学資を主として負担している者が，身体障害者の場合
(4) 学資を主として負担している者が，６か月以上の療養者の場合
(5) 学資を主として負担している者が，入学前１年以内に倒産又は失職した場合
(6) 学資負担者が大規模な災害により災害救助法適用地域において被災し，一定の条件を満たした場合

審査及び選考は家計及び学力を対象に行います。
ただし，上記の特別の事情(1)又は(5)に該当する場合は，学力は問いません。
免除の額は全額又は半額又は一部です。
入学後は，授業期（半期）ごとに申請書類を提出の上，審査選考を受けることになります。

Those with good academic standing who have financial difficulties or those in one of the specific needy circumstances listed below may file application for tuition waiver.

(1) The breadwinner of the household died or suffered a natural disaster during the academic year prior to the applicant's entrance to the university.
(2) The family is on welfare under the Livelihood Protection Law.
(3) The breadwinner of the household is handicapped.
(4) The breadwinner of the household has been under medical treatment for six months or longer.
(5) The breadwinner of the household went bankrupt or lost his or her job during the academic year prior to the applicant's entrance to the university.
(6) The breadwinner of the household has suffered from a large-scale disaster in a region subject to the Disaster Relief Act, and fulfills certain conditions.

For those in (1) or (5) situation above, the selection is based only on financial situation. For others, the selection is based on academic record as well as on financial situation. In either case, the amount to be waived is all, half or part of the tuition fee. Fee waiver candidates must present documents to be screened for approval for each semester.

６　奨 学 制 度
Scholarship

(1)日本学生支援機構奨学生（留学生を除く）
Japan Student Services Organization Scholarship (International students can't apply)
【制度の概要】
Outline

種　　別 type	貸　与　月　額 Monthly amount	返済条件 condition	貸与期間 period	備　　考 Notes
第一種 奨学金 Type 1	50,000円又は88,000円 ¥50,000 or ¥88,000	無利子 貸与 without interest	標準修業年限が終了する月	併用貸与もできます。 Combining the two types is possible.
第二種 奨学金 Type 2	５，８，10,13,15万円から選択 ¥50,000 ¥80,000 ¥100,000 ¥130,000 ¥150,000	有利子 貸与 with interest	学則で定める長期履修を含む修業年限の最終月	

※　第１学年入学者で条件を満たす場合には，希望により入学時特別増額貸与金（有利子貸与）を申込むことができます。（金額は10，20，30，40，50万円から選択）

①定期採用（平成３０年４月募集予定）
General application (April 2018)
本学大学院在学者で，成績が優秀で，将来，研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を備えて活動することができると認められる者について，申請に基づき選考・採用されます。
Graduate students with good academic standing who show increasing competence as researchers or specialists are eligible for application

②緊急採用（第一種奨学金）及び応急採用（第二種奨学金）
Urgent application (for type 1) and emergency application (for type 2)
家計支持者の死亡・破産・失職・病気又は自然災害等により家計急変が生じ，緊急に奨学金が必要になった場合に，申し込むことにより採用されるものです。
In the case of a sudden change in financial circumstances, e.g. the death of the chief breadwinner, bankruptcy, unemployment, illness or natural disaster, graduate students can apply for the scholarship.

(2)その他の奨学制度
Other scholarships
財団，信託銀行奨学基金等件数は少なく採択も容易ではありませんが，主に２月から５月にかけて募集しています。いずれも掲示等により案内します。
Several foundations and trust banks offer their own scholarships. Notices will be put up on the bulletin from February to May.

記載の内容は，平成２９年６月現在のものです。
貸与の基準や金額等については変更される場合がありますので，奨学金申込時若しくは奨学金の利用を予定している年度の開始前（３月初旬以降）に，日本学生支援機構のWebサイト又は大学の窓口にて改めて確認してください。

日本学生支援機構Webサイト　http://www.jasso.go.jp
The information provided herein is valid as of June 2017.

Loan standards, amounts, and other details are subject to change, so please check again on the website of the Japan Student Services Organization or at the university information desk before the start of the academic year (from early March onward) during which you intend to apply for or use scholarship funds.

Japan Student Services Organization website: http://www.jasso.go.jp/en/

7　学生寮への入寮について

学生寮への入寮を希望するものは，詳細を大学Ｗｅｂサイト(http://www.aichi-edu.ac.jp/campus/support/dormitory.html)にて必ずご確認ください。

学生寮に関するお問い合わせ先	学生・国際課学生寮担当　TEL 0566-26-2186

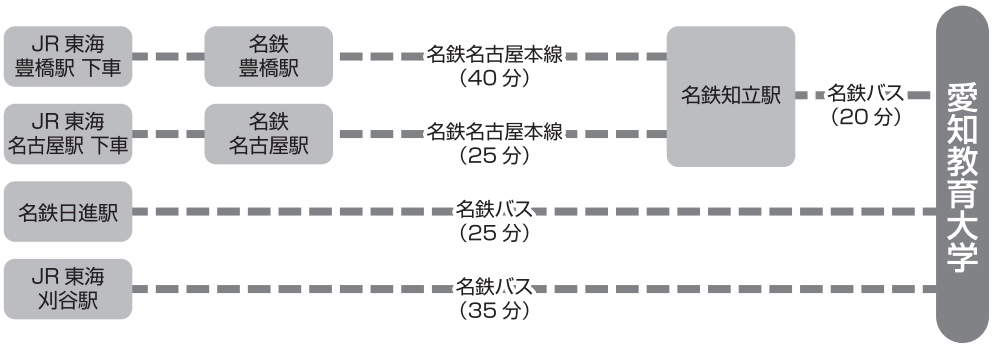
Applicants who wish to stay in a student dormitory must check the university website (http://www.aichi-edu.ac.jp/campus/support/dormitory.html) for details.

Inquiries related to student dormitories	Student Dormitory Office, Student Support Division: Tel +81 566-26-2186

◆　愛知教育大学へのアクセス（案内図）

MAP

ACCESS



●名鉄名古屋本線「知立駅」北口からバスで約 20 分「愛知教育大前」下車

●名鉄豊田線「日進駅」からバスで約 25 分「愛知教育大前」下車

●JR 東海道本線「刈谷駅」北口からバスで約 35 分「愛知教育大前」下車

※鉄道・バスの発着時刻等については、各交通機関のホームページ等でご確認ください。